



# SEABORG

## 100J/JL

---

取扱説明書

# 目次

安全上のご注意 .....	1~9
電源について.....	10~12
電源とのつなぎ方.....	10
電源について .....	11
バッテリーチェック表示について.....	12
お手入れ方法.....	13,14
リールのお手入れについて.....	13
お手入れ方法 .....	13
コード取扱い上のご注意 .....	14
コードのお手入れのしかた .....	14
その他お手入れ上のご注意 .....	14
各部の名称と機能 .....	15,16
スイッチの名称と働き .....	17
はじめに .....	17
機能設定の基本操作.....	18~49
1.メニュー画面の使い方.....	18,19
便利機能の設定のしかた.....	18,19
2.道糸入力.....	20~32
糸長 P1(糸長入力).....	20~22
下巻 P2(下巻入力).....	23~26
引出 P3(引出入力) .....	27~29
引出 P4(10m引出入力).....	30~32
3.釣りを始める前に.....	33
水面ゼロ設定 .....	33
道糸が切れてしまったら .....	33
4.船べり停止 .....	34,35
えらべる船べり自動停止 .....	34,35
5.モーターON/OFF連動クラッチ .....	36
6.チョイ巻き/チョイ止め .....	37
7.シャクリ .....	38~40
8.タイマー .....	41
9.電子ドラグ音 .....	42
10.デプスマラーム .....	43
11.水深補正① .....	44
12.水深補正② .....	45
13.実釣来歴 .....	46
14.その他の便利機能 .....	47,48
いろいろアラーム .....	47
アラームON・OFF選択 .....	47
Language(言語)選択 .....	47
単位選択 .....	48
手巻きスピード表示 .....	48
カウンターランプ .....	48
ブレーカー作動表示 .....	48
15./ハンドルノブの取り外し方 .....	49
仕様一覧 .....	50
リール仕様一覧 .....	50
カウンターパート仕様 .....	50
展開図 .....	51,52
故障かな?と考える前に .....	53

## ライン入力方法一覧

このリールは下記の方法で入力できます。

- |                |  |
|----------------|--|
| P1 糸長入力        | 巻く糸の全長がわかっている時に便利な方法。<br>20~22                                 |
| P2 下巻入力        | 下巻きを入れる時の入力方法。ただし、長さのわかる道糸100m以上が必要です。<br>23~26                |
| P3 引出入力        | 道糸を巻き終った状態から引き出して再入力するための方法です。ただし、長さのわかる道糸60m以上が必要です。<br>27~29 |
| P4 10m引出<br>入力 | 道糸を巻き終った状態から10m引き出して入力する方法です。<br>30~32                         |

この度は、シーボーグ100J/JLをお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。船釣りに便利な機能が多く搭載されているこの電動リールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。またリール同様、この説明書も大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

# 安全上のご注意

電動リールをご使用にあたり注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。取扱説明書および付属のワーニングリストを読まずにご使用されての保証はできません。

## ●マークについて



この記号は「してはいけないこと」を意味しています。  
この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。



この記号は「注意すべきこと」を意味しています。  
この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。



この記号は「しなければならないこと」を意味しています。  
この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。

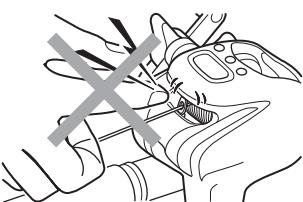
## !**警 告**

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 糸をスプールに平行巻きにするレベルワインドと本体の間に指をはさまれないようご注意ください。怪我をするおそれがあります。



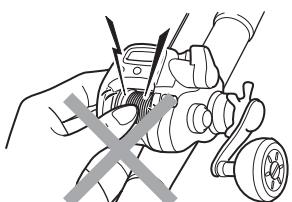
接触注意!



- 糸送り(モーター作動)中にクラッチをONにすると糸を巻き込みます。その際は指をはさまれないよう注意してください。怪我をするおそれがあります。



接触注意!

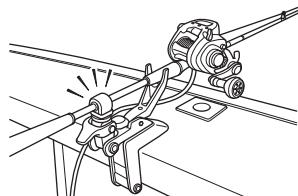


- 使用中は目を離さないでください。思わぬ事故・怪我につながります。

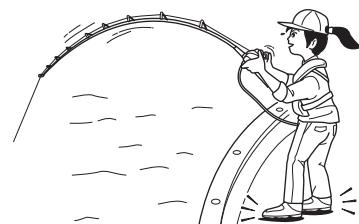


- 大型電動リール、大物釣りにおいて、ロッドクランプおよびホルダーにきちんと取り付けてください。しっかり固定されていないと思わぬ事故・けがにつながります。

ロッドには付属のクランプを使用して装着してください。



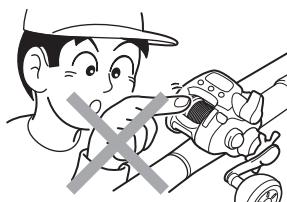
- 無理な姿勢で使わないでください。常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。



- おさまが使用する時は、回転部やスキマに手をはされないよう、付き添いの保護者の方は十分ご注意ください。



取扱注意!



- 大型電動リールはハイパワーのため、高い負荷をかけた際はロッドホルダーや船の取付部、ロッドの破損、人が海に引きずり込まれたり、ボートが引張られたり等、事故や怪我にご注意ください。

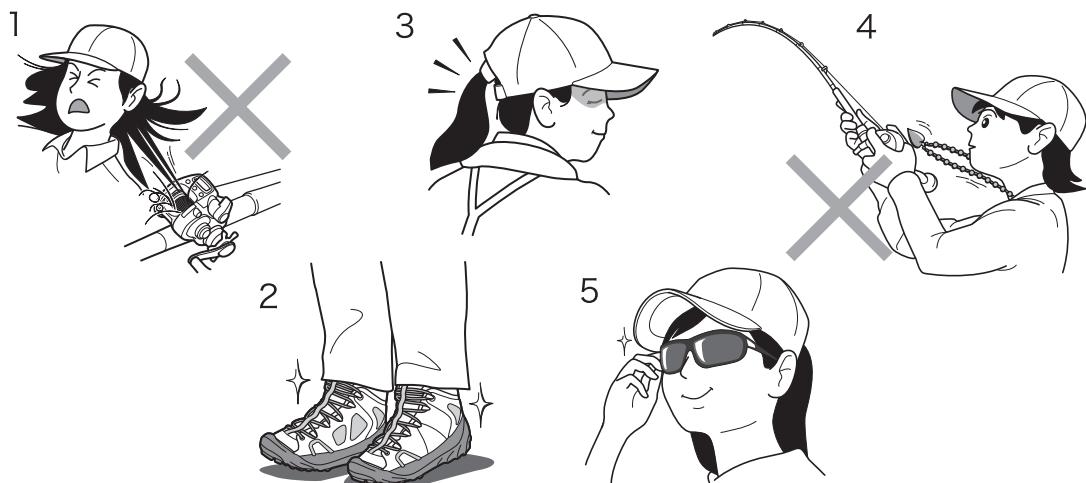
# 安全上のご注意

## ⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 適切な服装・装備で使用してください。回転部に巻き込まれたり、飛散物により重傷・障害を負う可能性があります。

1. 髪、衣服、手袋を回転部に近づけないでください。
2. 滑りにくい履物を着用してください。
3. 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
4. ネックレスやネクタイ等不意に巻き込まれるおそ恐れのある装身具は着用しないでください。
5. 偏光グラス、眼鏡等、目を保護する装備を着用してください。



- 幼児の手の届く所では保管、使用はしないでください。リール本体だけではなく、包装品・付属品なども同様です。



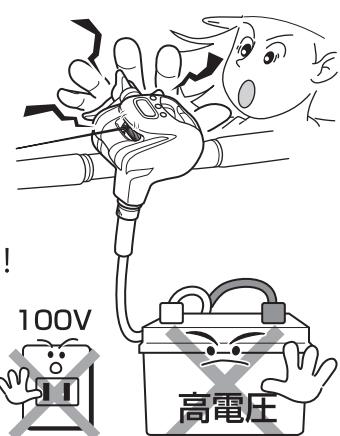
保管注意!



- バッテリー、船電源などを使用する場合は、所定電圧以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが異常発熱し、手をヤケドしたり、ICが故障したりするおそれがあります。家庭用(交流)電源にはつながないでください。回路がショートし発煙・発火する場合があります。



使用の禁止!



- 電動リールを使用されますと微弱な電波が発生し、補聴器・ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目まいが起こる場合がありますので、本製品のご使用はおやめください。



使用の禁止!



# 安全上のご注意

## ⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。バッテリーがショートし破損・火災・やけどを負うおそれがあります。

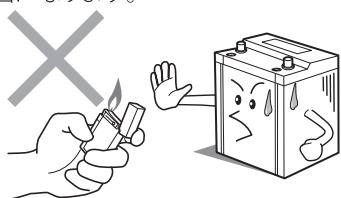


- ハーネスなどで電動リールを体に固定するのはおやめください。大きな魚により、海水へ引き込まれるなど、生命身体に危害が及ぶおそれがあります。

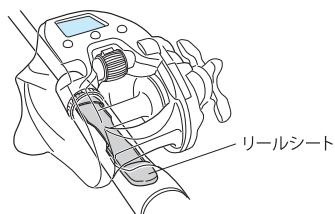


使用の禁止!

- リール・コード・バッテリーを可燃物・引火性物質(液体・ガス・粉塵)に近づけないでください。発火や爆発の原因になります。



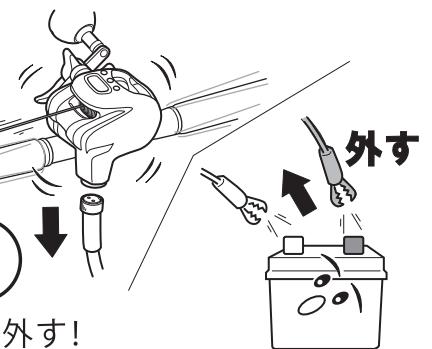
- 電動リールはリールシートにしっかりと固定してください。ガタ付きがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、けがを負うおそれがあります。



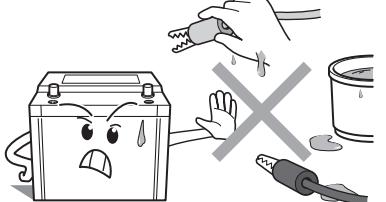
- 何らかの異常で釣りの最中にモーターが回り放しになった場合は、指をはさまれないよう、注意して、直ちに電源を外してください。



電源を外す!



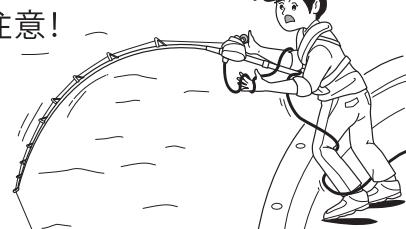
- バッテリーとコードの接続時には濡れた手で接続しないでください。感電するおそれがあります。たとえ天候が雨であっても、一度手をタオル等で拭った上で速やかに接続してください。



- 体に電源コードが巻き付かないように注意してください。状況により海に引きずり込まれるおそれがあります。



取扱注意!



- 駆動しているとき、駆動部分に触れないでください。けがをするおそれがあります。



接触禁止!

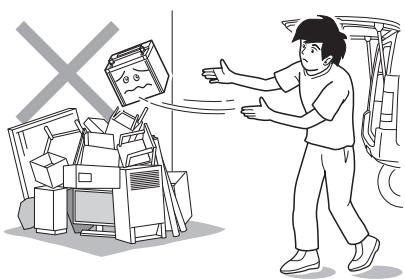


# 安全上のご注意

## ⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 製品およびバッテリーを廃棄する際は国や各地域のルールに従い廃棄してください。



- ドラグ力を設定する際は、必ずその前に、電動自動巻き上げをレバーOFFにしてください。手で糸を引いてセットする場合等で、糸で手を切るおそれがあります。

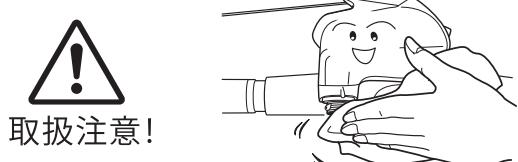


- 糸が勢いよく出ているとき、または、糸を巻いているときに、糸をつかまないでください。糸で指を切ることがあります。

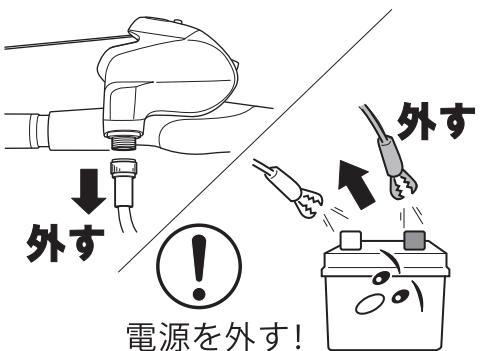


- 船上でコードの再接続をするときは、接続部に海水などの水分が付着していることがありますので、乾いた布でよく拭き取ってから、接続してください。

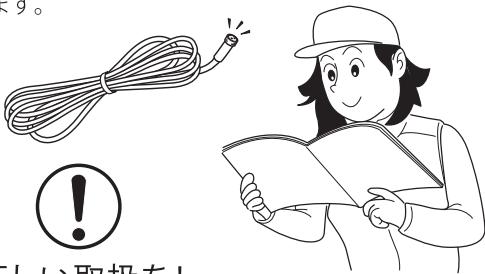
そのまま接続すると、ショートして、感電・発煙・発火のおそれがあります。



- 釣りにご使用にならない時は、巻上げレバー及び電源をOFFにしてください。意図しない動作をして、怪我等のトラブルになる可能性があります。



- 使用状況や保管状況によって、コードが断線、ショートなどの故障を起こし、発煙・発火に至る場合があります。『コード取り扱い上のご注意』、『コードのお手入れのしかた』、『その他お手入れ上のご注意』を必ずお守りください。なお、コードの手入れは、電源を外してから行ってください。古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年ないし使用60回での交換をお薦めします。



- モーター放熱部やドラグ発熱部には、手を触れない様ご注意ください。高温になる場合があり、やけどのおそれがあります。



# 安全上のご注意

## ⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 分解・改良などはしないでください。リールの性能に不具合が生じたり、故障につながる原因となります。また製品保障の対象外となります。



改造の禁止!



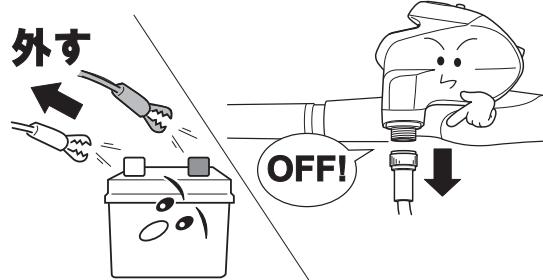
- コードの改造はしないでください。ショートなどの故障を起こし、発煙・発火のおそれがあります。



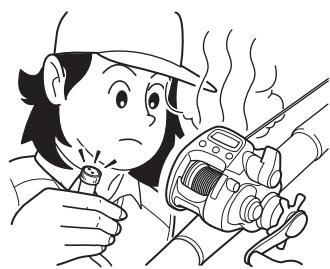
改造の禁止!



- 電源を外すときは、駆動を停止してから、行なってください。故障の原因になります。  
回転中の断電は、火花が発生し、発火・爆発の原因になります。



- こげくさい時や漏電など、異常時には直ちに駆動を停止して、電源を外してください。異常発熱や発火・感電などの原因になります。



外す



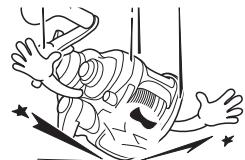
電源を外す!



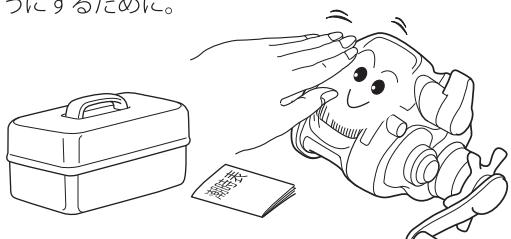
- 落下などのショックにより破損あるいは内部電子部品の損傷、クラックによる浸水、基板短絡が生じ機能障害を起こします。強い衝撃や重圧が加わらないようご注意ください。(外観上には異常が見られなくても故障していることがあります。)  
また落下により、怪我をするおそれがあります。



取扱注意!



- 釣りにお出かけの前には、リールの点検(動作点検)を行なってください。  
故障によって、釣行に支障をきたすことのないようにするために。



- 糸巻き中に布・衣服・髪などが巻き込まれないよう、ご注意ください。  
また、バックラッシュ等によりフケた糸の巻き込みにもご注意ください。



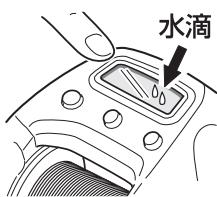
# 安全上のご注意

## ⚠ 注意

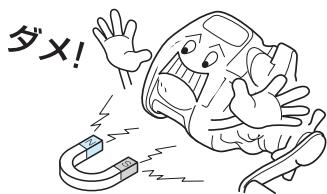
記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- リールを落としたり、衝撃を与えたりすると、カウンターや本体にヒビや割れ等が発生し、水が浸入することがあります。その状態で使用すると、モーターの制御不能等でが等に繋がるおそれがありますので、ご使用はおやめいただき、お近くのDAIWA取扱店に持ち込み、修理にお出しください。

使用の禁止!



- 磁石等磁力のある物は近づけないでください。誤動作や故障の原因になります。



- リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないように注意してください。

取扱注意!



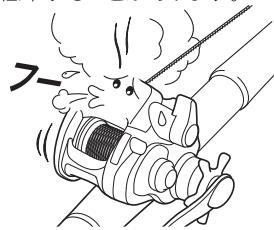
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分に緩めてから接続してください。  
IC故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損するおそれがあります。

取扱の実施!



- 屋内で糸を巻くときは、高速で行ってください。低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に発熱し発煙するおそれがあります。また、電動巻上性能が低下することがあります。

取扱注意!



- 他の釣り人と仕掛けが絡んだり、根掛かりしたときは、無理に巻かないでください。竿その他を破損するおそれがあります。

取扱注意!

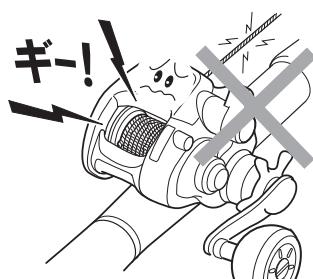


- 根掛かりしたときは、竿をあおらず糸を手に取つて切るようにしてください。(手袋やタオルで必ず手を保護しましょう。)  
太いハリスをご使用になっている場合、手で持つて切れそうもないと思われるときは、船長に相談して安全に対処してください。

けがに注意!



- ワイヤーは、道糸として使用しないでください。スプールが腐食したり、破損したりすることがあります。



# 安全上のご注意

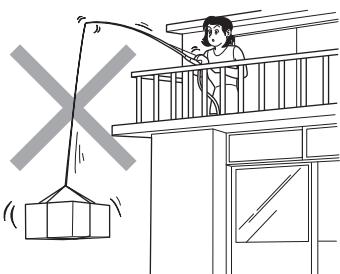
## ⚠ 注意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- リールを釣り以外の目的で使用しないでください。



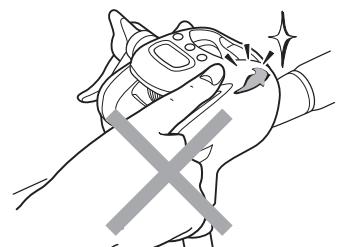
目的以外の  
使用禁止!



- 塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥れた場合は、その部分に触れないでください。けがをするおそれがあります。



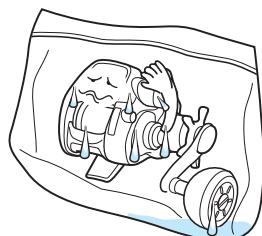
接触禁止!



- スプールとフレームのスキマやその他本体のスキマに棒や金属物などを入れないでください。故障の原因になります。



- 濡れたままビニール袋やバッカンなどで、リールを保管しないでください。錆や故障の原因になります。

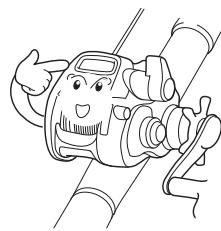


- 使用途中で、カウンター表示がずれたり、道糸が切れたり、電源が外れたり、大きな張力変動があったりしたときは、カウンター表示の再設定を行ってください。  
そのまま再度使用しようとすると、巻き込んで竿その他を破損するおそれがあります。

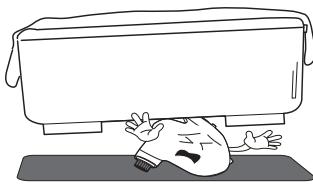
水面に仕掛けがある位置でのリセットを忘れた場合も同様のことが起こるおそ恐れがあります。



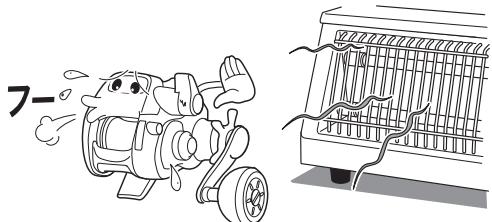
操作の実施!



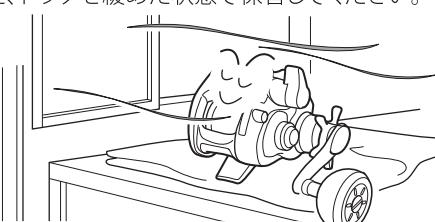
- リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。



- 発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。



- リールを長期間収納するときは、水分を完全に切り、直射日光を避けなるべく通風性のよい場所に保管してください。  
また、ドラグを緩めた状態で保管してください。



# 安全上のご注意

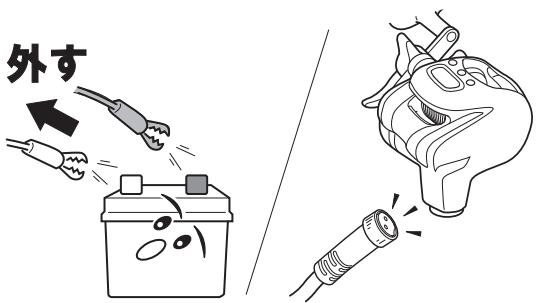
## ⚠ 注意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

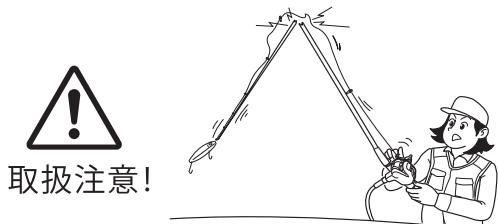
- 電動リールを洗剤で洗うときは、中性洗剤を薄めて使用してください。塩素系、酸性及びアルコール系洗剤は使用しないでください。樹脂が劣化して、故障の原因になります。



- リールを使用しないときは、電源・コードを外しておいてください。  
使用中は目の届く範囲で管理してください。



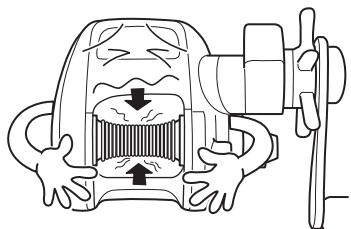
- 船べり停止位置は巻き上がる張力により変動します。強い張力で巻上げをした場合は、ゼロリセットは行わないでください。  
※船べり停止点設定には余裕を持ってください。ギリギリに設定すると竿を折る可能性があります。



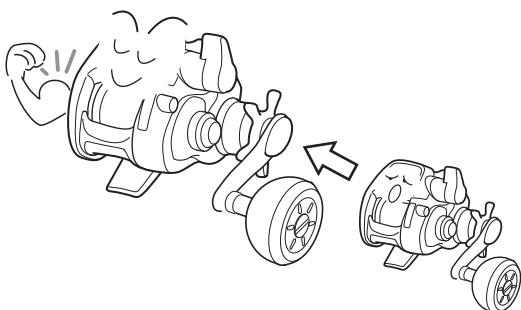
- 塩分を含んだ海水で道糸が湿った状態のままで保管するとスプールが腐食するおそれがあります。水道水を糸巻き部にあたるように掛けて海水を十分流してから通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。



- 水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールを破損するおそれがあります。特に、PE専用機種には、ナイロン・フロロラインなどを巻かないでください。



- ブレーカーが何度も作動する場合は、リールサイズが釣り方・ターゲットに合っていませんので、最適なスペックサイズのリールをご使用ください。



# 安全上のご注意

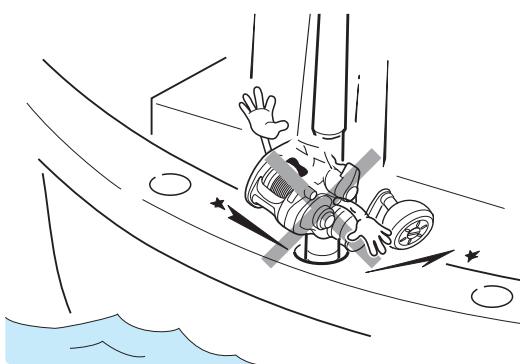
## ⚠ 注意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 振り出しロッドを仕舞い込む際に、リールをつけたまま竿尻を床面等にトントン叩いて仕舞わないでください。リールが破損するおそれがあります。



- 船べりの穴へ竿にリールをつけたまま入れる場合は、船べりにリールが直接当らないか確認してください。当る場合は、穴へ入れることはおやめください。リールを破損するおそれがあります。



## 取扱上のご注意

電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

### ■マグシールド

「マグシールド」は磁性を持つ液体を利用してすることで、磁性を持つ液体の壁を作り、水の浸入をシャットアウトする画期的構造。滑らかな回転はそのままに、水、異物の侵入を抑えることで初期回転性能を長期間継続。イヤな塩ガミがなくなることで、長期間使用時の回転低下や異音を改善し、耐久性が大幅に向上了。

### ■マグシールドボールベアリング

独自の技術により、ボールベアリングそのものをマグシールド化。磁性を持つ液体の壁によって、ボールベアリング内部への水、異物の侵入を抑えることで、ボールベアリング自体の錆、塩ガミ、異音を大幅に解消。



- 注意
- ・マグシールドボールベアリングそのものへの注油は絶対におやめください。  
マグシールド機能を損ないます。
  - ・分解作業は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。



- 注意
- マグシールドボールベアリングの優れた防錆・防塵性能は、内部に封入された磁性を持つ液体（マグオイル）の壁により維持されております。
  - ・マグオイルはやや多めに封入されているため、ボールベアリングの表面にマグオイルが滲み出ることがあります、性能には影響ありません。（表面の滲み出たオイルは拭き取らないでください。）
  - ・マグシールドボールベアリングを指や、布、綿棒等で触れたり、拭いたりすることは絶対におやめください。マグオイルが拭き取られることにより、マグシールド機能を損なうおそれがあります。

### ◆カウンター部について

- ① 真冬（カウンターの表面温度-10°C以下）および真夏（カウンターの表面温度60°C以上）

※上記の場合には、液晶の特性上文字が見にくくなることがあります。ご了承ください。

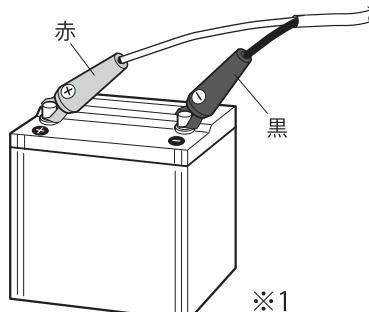
- ② 早朝や夕方など太陽光の入射角によって液晶表示の影が見えることがありますが異常ではありません。

登録商標： DAIWA登録商標を取得した製品です。類似品にご注意ください。また偽装品の製造・販売は各国の法律により罰せられます。

# 電源について

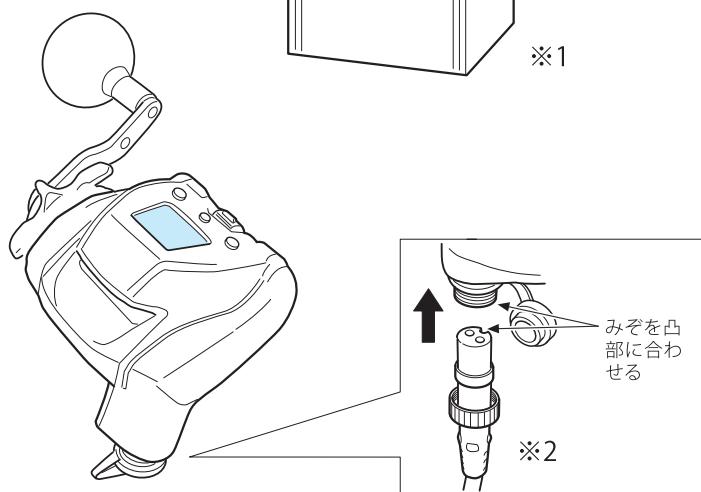
## ●電源とのつなぎ方

- 1.まず、コードのクリップ(2つ)と電源をつないでください。  
クリップは赤いカバーのほうがプラス $+$ 、黒いカバーのほうがマイナス $-$ です。



- 2.次に、付属コードのコネクターとリール本体をつないでください。

※以上の手順が正しく行なわれる  
と、下図のように表示変化した  
うえで、セットされます。



### 警告

- ※1: 土を逆に接続すると通電しません。またバッテリーおよび本体・コードが破損するおそれがありますのでご注意ください。
- ※水や海水など濡れた手で電源の接続はしないでください。感電する可能性があります。天候が雨の場合には、ゴム手袋を着用して接続作業をしてください。
- ※2: 誤った接続をすると通電しません。またコードがショートし破損の原因となりますのでご注意ください。
- \*可燃物・引火性物質を電源及びリールの近くに設置しないこと。火災の原因になります。リチウムバッテリーの直列接続は絶対にしないでください。火災の原因になります。

### 注意

- 一度電源につなぐと、メモリーバックアップ（カウンター情報の保存）機能が働くため（最低15分間）、その後の電源との再接続時には、上記の表示変化がされないでセットが完了するケースがありますが、問題はありません。

# 電源について

## ●電源について

このリールは直流(DC)12V~16.8V対応の電動リールです。指定外の電源(たとえば、家庭用の交流(AC)100V、船装備の直流24Vなど※一部24V対応機種除く)では使用できません。

なお、船電源は、発電機や配線の関係で電圧が不安定になりやすく、リールの保護回路が働いて回転が停止したり、断続的になってしまうことがあります。リールの性能を充分に発揮させるためにも、電動リール専用バッテリーをご使用ください。



1.バッテリー側の原因による故障・損害は補償しません。

※ダイワの電動リールに使えると表現している電池がありますが、ダイワはその製品規格・安全性その他に一切かかわっておらず、ダイワは使用をお薦めしません。もしご使用になってなんらかの事故・損害その他が発生してもダイワは一切責任を負いません。どうしてもご使用になる場合は自己責任でお使いください。また特にリチウム電池については大きな事故を引き起こす可能性が高いため、特にご注意ください。

2.船電源を使う場合、船側に損害が生じる場合があります。

※船電源を使う場合はエンジン切った状態で容量を使い切らないこと。

※エンジンが始動せず遭難します。

※リールの仕様一覧表に記載された電圧よりも高い電圧、もしくは家庭用電源を接続すると電動リールの電子回路に損傷を与え、モーター制御不能になります。煙の発生や火災につながりますので、電源環境やその仕様については必ずご確認ください。

## ! 警告

1.指定電源以外は使用不可

電源は防水性の確保されたマリン用DEEPCYCLEバッテリーを推奨します。

また、指定のリチウム電源(販売国)のみ対応可。

※お近くのDAIWA取り扱い店に問い合わせください。

2.家庭用電源・船親電源から直接つないで使用すると破損のおそれがあります。

3.バッテリーは、長時間放置されると自然放電（残量低下）している可能性があります。釣行前には、必ず充電を行なってください。

4.船の電源は、電圧、接続端子の形状などにより使用できないことがあります。事前にご確認することをおすすめします。

・端子のサビなどによりリールが正常に作動しない場合があります。サビなどは取り除いてご使用ください。

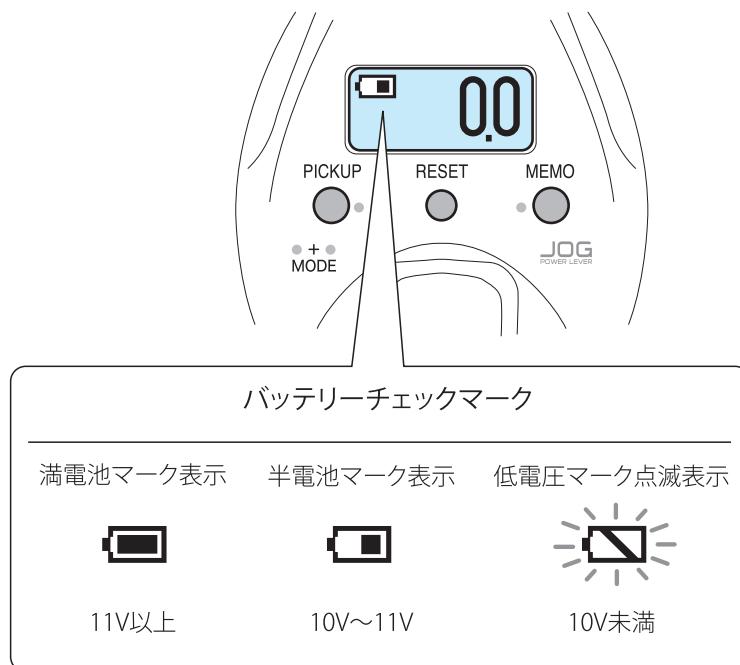
5.正しい電圧出力のバッテリーを使用してください。低電圧時に高負荷の巻上げを行うと、電子部品にダメージを与える可能性があります。

## ! 注意

# 電源について

## ●バッテリーチェック表示について

通電時に、電源電圧が低下すると、下記のようなバッテリーチェックマークが表示されます。10V以下では巻き上げ出力が制限され、最大限発揮できないことがあります。モーター回転がストップしているときにこの表示が点滅している場合、バッテリー残量の減少による電圧低下が考えられます。そのときには、バッテリーを充電したものと交換してください。（船電源をご使用の場合は、電源の電圧や端子をチェックしてください。）



※リールの検知電圧は、実際の電源電圧と多少誤差がある場合があります。

※バッテリーが切れカウンター表示が消えた状態で（魚とのやりとり等で）手巻きで糸を巻くと水深カウンターが狂い、次のバッテリーで電動巻上げした時に糸を巻き込み、竿先を折る可能性がありますのでおやめください。カウンターが消えたら、そのままの状態でバッテリーを交換してください。



- バッテリー残量不足の表示が出た場合は、電動巻上げやIC機能等に不具合が起こりますので、十分に充電されたバッテリーと交換してください。

# お手入れ方法

## ●リールのお手入れについて

このリールは水洗いできる「洗える電動リール」です。釣りが終わった後で汚れなどをきれいに洗い流してください。

## ●お手入れ方法

- 1.中性洗剤を含ませた、柔らかいスポンジなどでリール本体を洗い、汚れを落とします。

※汚れがひどい場合に使う洗剤は、中性洗剤のみを薄めて使用してください。

※使用量目安:水1ℓに対して1.5mℓ

液体（薬用）石鹼など石鹼類及び弱アルカリ性など中性以外の洗剤のご使用はおやめください。故障の原因になることがあります。

- 2.水をかけて洗剤と汚れをよく落としてください。スプール部にもよく水をかけて塩分を落としてください。

給湯器をご使用の際は、温度設定を30℃以下としてください。

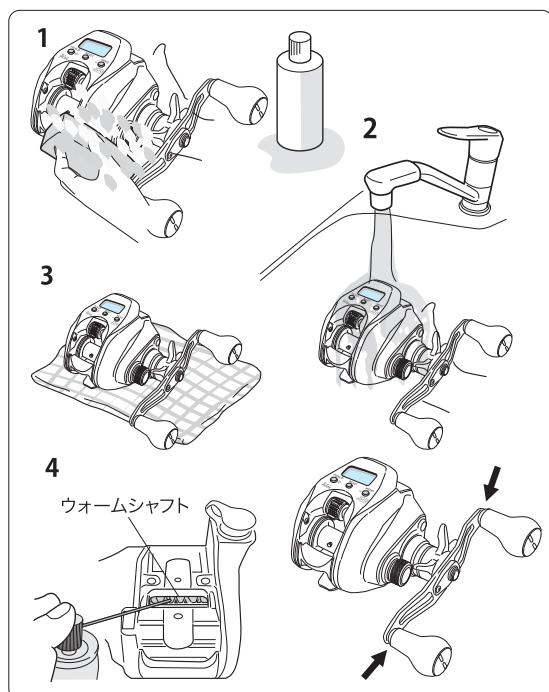
- 3.よく水を切り、陰干してください。

※保管の際は、ドラグを緩めてください。

※ハンドルノブ内部には水がたまりやすいため、特に注意して水切りをしてください。

- 4.ウォームシャフト、ハンドルノブ、クラッチに注油してください。

グリスの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。

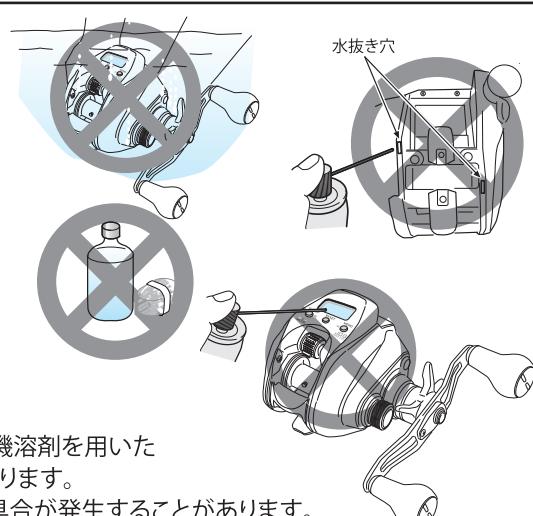


※推奨グリス:純正リールガードグリス  
(商品コード:2380027)

専用スプレーは釣具店にてお取り寄せください。

## ! 注意

- ・海水で洗ったり、水の中につけて洗うことは絶対にしないでください。
- ・ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- ・リール本体に傷が付きますので、みがき粉、タワシ、スチールタワシなどは絶対に使用しないでください。
- ・注油したオイルがはね返り噴き出す可能性があるので、のぞき込まないでください。
- ・水抜き穴への注油は、絶対にしないでください。
- ・本体に磁力を近づけないでください。
- ・ICカウンター周辺への注油や化学薬品類等の有機溶剤を用いた洗浄はしないでください。電装部の故障につながります。
- ・注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。
- ・ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。
- ・市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリングや内部機構部品等の耐久性を損なうおそれがありますのでおやめください。
- ・使用しないときには付属のリールバッグに包んで保管してください。



# お手入れ方法

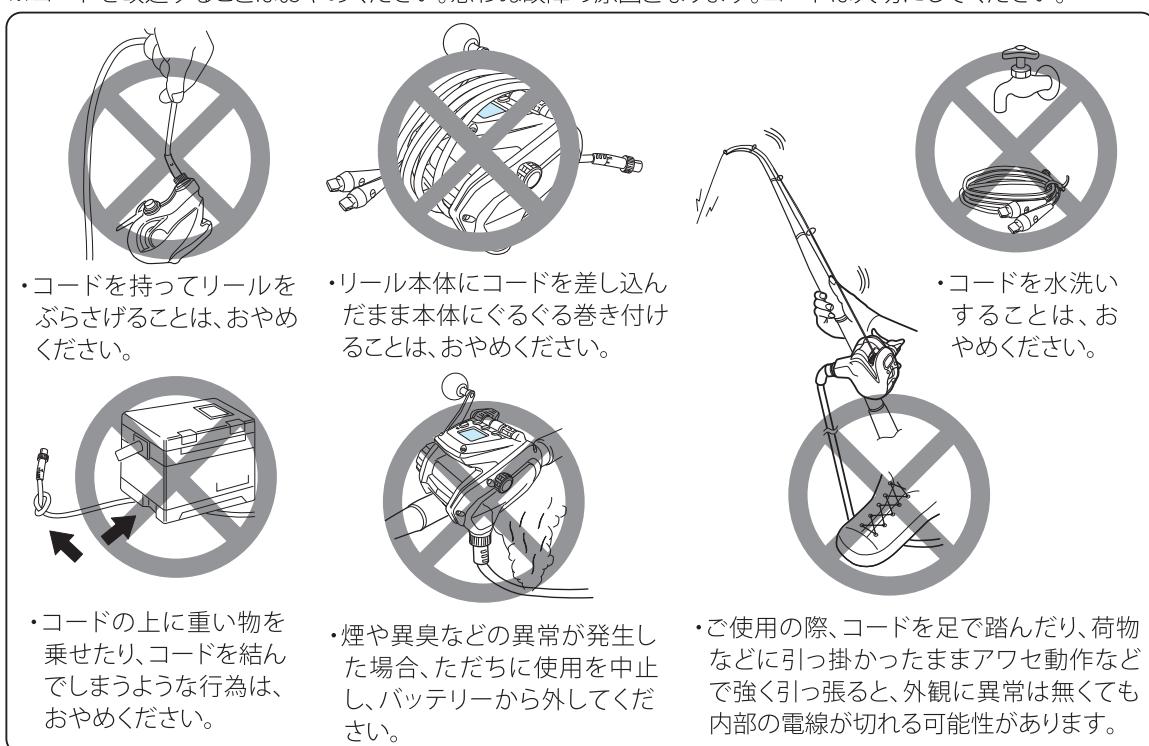
## ●コード取扱い上のご注意

コードの断線等によるトラブルをさけるために必ず守ってください。

付属の専用コードをご使用ください。

※他のコードとは互換性がありませんのでご注意ください。

※コードを改造することはおやめください。思わぬ故障の原因となります。コードは大切にしてください。



## ●コードのお手入れのしかた

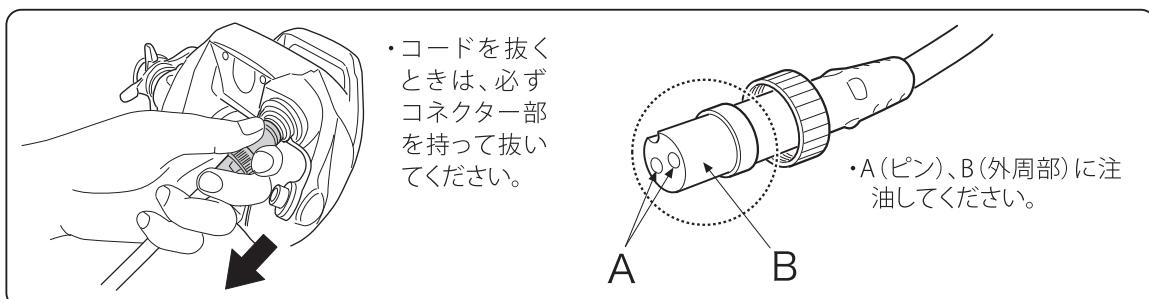
・ご使用後は、水道水または温湯で浸した柔らかい布で、外観部の汚れを拭き取り、よく乾かしてください。

・特に、ワニグチクリップは、カバーを外して、完全に乾かしてください。

・乾燥後は、コネクタ一部の注油を行なってください。

\*推奨グリス:SLPWコネクターグリス501(商品コード:4 386502) 専用グリスは釣具店にてお取り寄せください。

・リールのコードは、本体から外して保管してください。



## ●その他お手入れ上のご注意

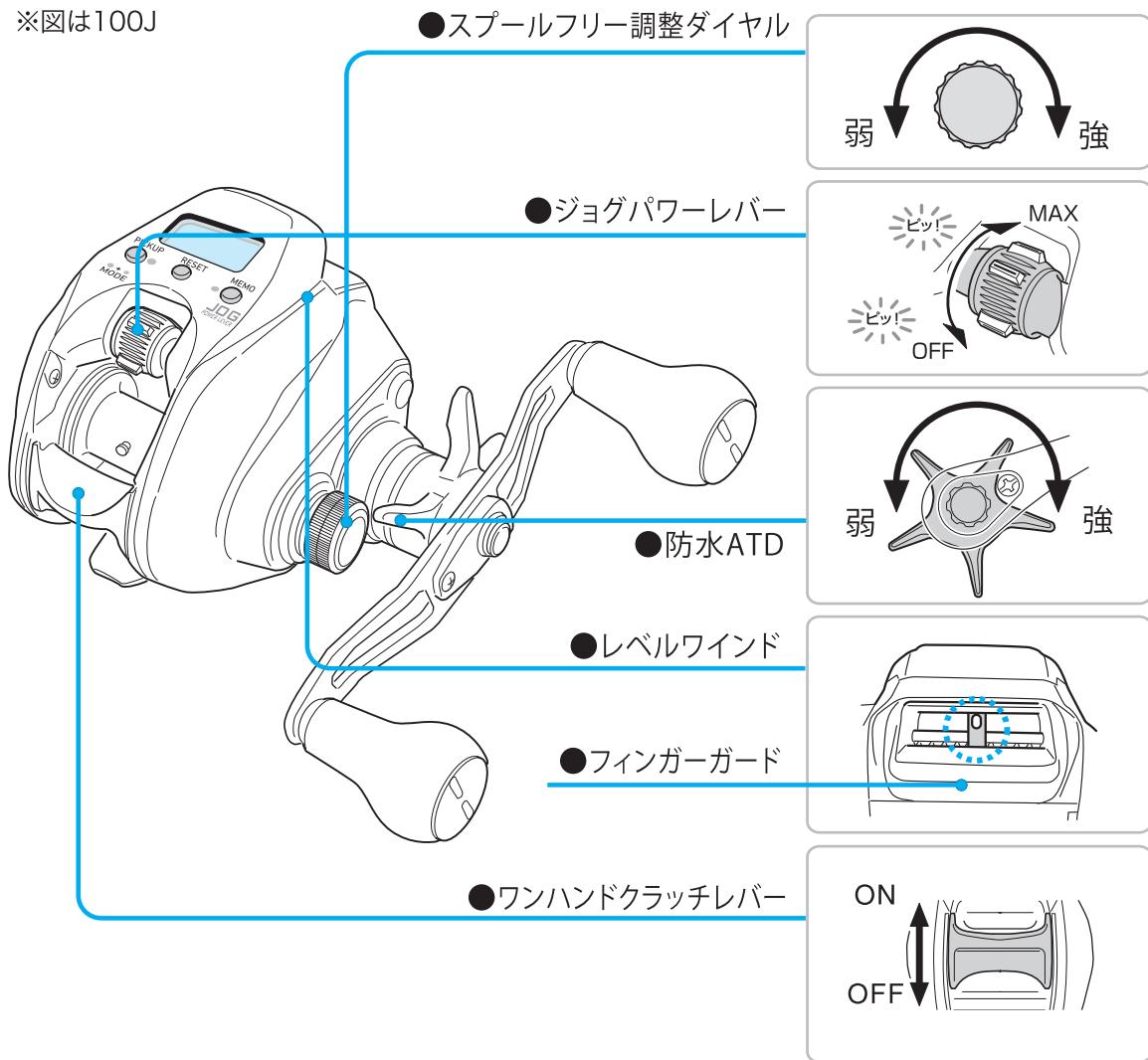
・このリールは電気回路、モーターなどの精密な部品を内蔵しておりますので、お客様ご自身での分解組み立ては極めて困難です。おやめください。

・コネクタ一部保護のため、リールをご使用にならないときは防護用コネクターキャップでフタをしてください。

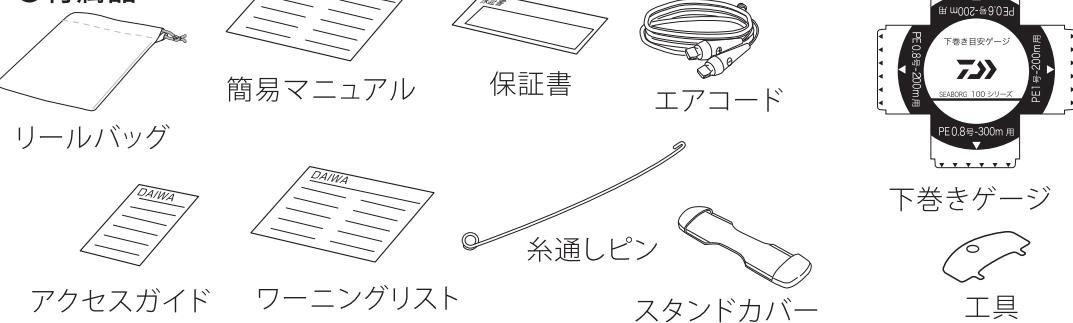
・古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年ないし使用60回での交換をお薦めします。

# 各部の名称と機能

※図は100J



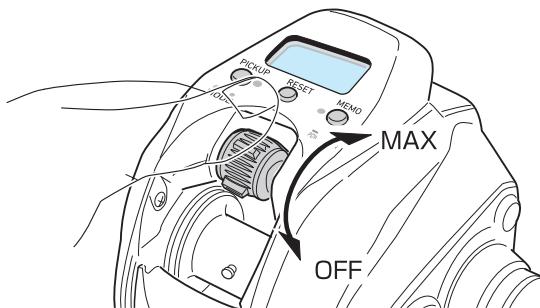
## ●付属品



# 各部の名称と機能

## ●ジョグパワーレバー

- レバーは親指で軽く操作できます。



- レバー操作により巻上げ出力(パワー/スピード)をOFF～MAXまで自由自在に変速させることができます。
- レバーを前(MAX側)に倒すと、出力がアップします。レバーを元(OFF側)に戻せば、出力がダウンします。
- 巻上げを開始するとき、レバーがOFFの位置にないときは、レバーを一度OFFの位置まで戻して(OFFの位置でアラームが鳴ります)から、レバーを前に倒して巻上げを開始してください。
- 船べり停止位置付近では、安全のためレバー操作がきかない場合があります。
- 巻き上げ負荷の変動等で、レバーの設定表示が上下する時がありますが、異常ではありません。

## ●防水ATD ※ドラグノブクリック付き

- スタートドラグの締め付けを調節することにより、魚の急激な引きに対応し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。
- 1.リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。
- 2.クラッチONの状態で、手で糸を引き出しながらドラグの締め付けを調節します。通常は、糸(ハリス)が切れる寸前にスプールが空転するように調節します。

## ●ワンハンドクラッチレバー

- 親指で軽く下に押すだけでクラッチが切れます。  
◆ONの時→ハンドルを回すと糸が巻き取れます。  
◆OFFの時→スプールがフリーになります。ハンドルを正転方向に回せばクラッチONになります。

## ●モーターON/OFF連動クラッチ

- 電動巻上げ(モーター回転)中にクラッチをOFFにすると、モーター回転が一旦停止し、再度クラッチをONにすると電動巻上げ(モーター回転)を自動で再開します。
- フォール中における魚のアタリや、イカの触りなど繊細なアタリを捉えることができます。

## ●スプールフリー調整ダイヤル

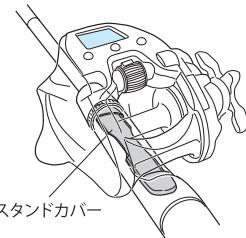
- バッククラッシュ(糸フケによるパーマ)を防止するブレーキシステムです。船の揺れや仕掛けの重さなどにより、締め付けがいいを調節してください。

## ●レベルワインド

- ガイドに糸を通します。糸がスプールに平行に巻けます。  
※糸を巻く際の条件により、スプールへの糸巻き状態に若干の片寄りが見られる場合があります。

## ●付属品

- エアコード/リールバッグ/アクセスガイド/ワーニングリスト/簡易マニュアル/下巻きゲージ  
保証書(日本モデルのみ付属)/工具
- 糸通しピン  
レベルワインドに糸を通すときに使います。(糸通しピンは、付属品としてビニール袋に、リール袋と一緒に入っています)
- スタンドカバー  
リール・ロッドへの傷付き防止及びリールシートとのがたつき防止としてお使いください。



## ! 注意

- ※スタンドカバーを付けるとロッドによっては、リールが付かない場合があります。
- ※取付部が回転するロッドでは、スタンドカバーが破れる場合があります。
- ※リールシートを強く締め込み過ぎるとスタンドカバーが変形し、スプールに接触してスプールフリー(仕掛け落下)が悪くなるおそれがあります。

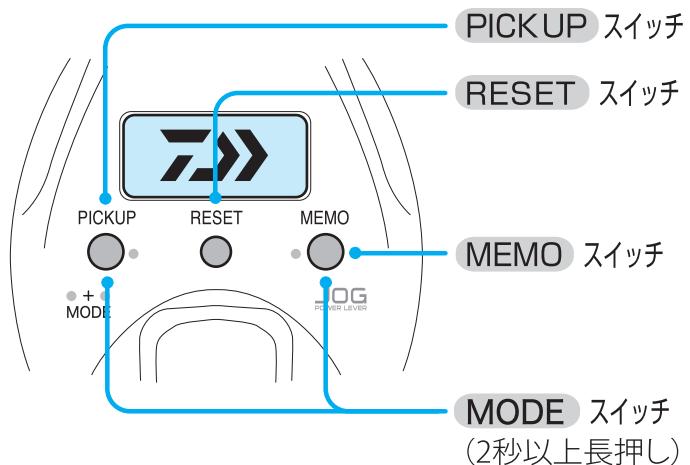
## ! 注意

※キャスティングを行うと、キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。周囲の人やご自身に当たるなど、大変危険です。ギアや内部パーツの破損に繋がるおそれもあります。絶対に行わないでください。

※糸の巻き上げを行っている時に、クラッチレバーの上に指を置かないでください。また、クラッチレバーを押し込んだ状態でアワセやハンドルを回さないでください。クラッチおよびストッパーの故障や破損につながります。

# スイッチの名称と働き

※図は100J(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



PICKUP スイッチ

RESET スイッチ

MEMO スイッチ

MODE スイッチ  
(2秒以上長押し)

## ●RESET

- ・釣りを始める前に必ず一度 **RESET** スイッチを押してください。  
スイッチを押した点を基準に船べり停止点が設定されます。
- ・長押しで糸切れ時のデータ修正ができます。

## ●MEMO

- ・タイマーの再スタートに使用します。
- ・長押しで船べり停止点の設定ができます。

## ●PICKUP

- ・チョイ巻・止やシャクリに使用します。

## ●MODE(メニュー)

- ・**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒以上押すと各種便利機能の設定画面となります。

# はじめに

最初に電源に接続して言語を選択します。

## 1.リールを通電させてください。

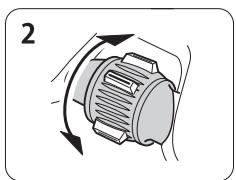
※接続方法についてはP.10

「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

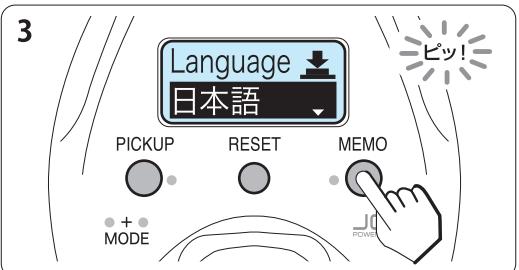
## 2.ジョグパワーレバーで言語を選択してください。



## 3.選択した言語で問題無いか確認して

100Jは **MEMO** スイッチ

100JLは **PICKUP** スイッチ



3

Language  
日本語

ピッ!

PICKUP  
RESET  
MEMO  
MODE

100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ

Language  
English OK?

Choose the  
m

00

## 注意:

初回に設定した言語と単位は後からでも MENU画面内で変更できます。

※言語は「日本語」「English」「繁體中文」「簡体字中文」「한국어」が選べます。

# 機能設定の基本操作 「1.メニュー画面の使い方」

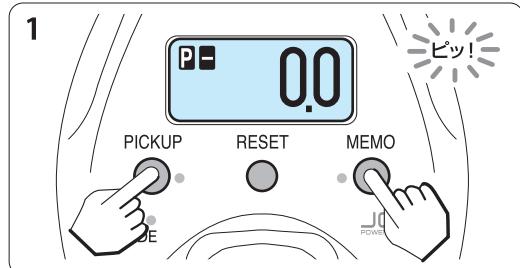
## ●便利機能の設定のしかた

- メニューの中には便利な機能が満載されています。  
※セットした機能は、次の釣行もメモリーされています。  
(設定直後に電源を切った場合、メモリーされない場合があります。)

### 1.表示が **0.0** のときに

**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ  
を同時に2秒間押し続けてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



(水深画面)

### 2.ジョグパワーレバーで各機能を選択し

100Jは **MEMO** スイッチ

100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押して、各種設定を行います。

※各機能の詳しい設定方法は、下記のページをご確認  
ください。

ジョグパワーレバー  
でメニューを選択

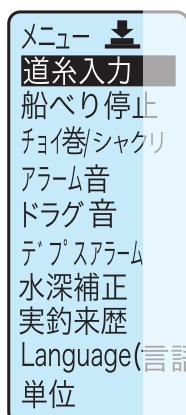


**MEMO** スイッチ +  
**PICKUP** スイッチ (長押し)



(水深画面)

(メニュー画面)



- 『P20~32へ』
- 『P34,35へ』
- 『P37~40へ』
- 『P47へ』
- 『P42へ』
- 『P43へ』
- 『P44,45へ』
- 『P46へ』
- 『P47へ』
- 『P48へ』

# 機能設定の基本操作 「1.メニュー画面の使い方」

## ■メニューの操作方法

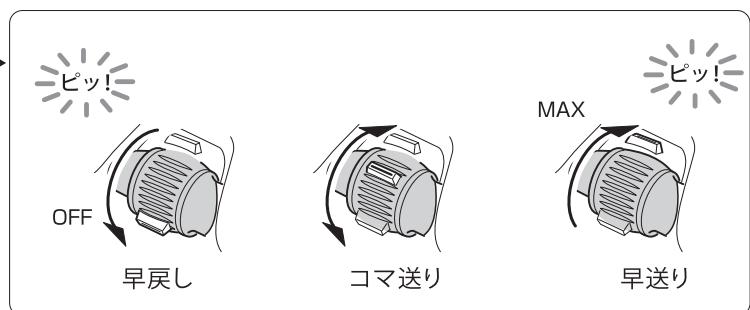
メニュー画面を例にご説明致します。

### ●メニュー画面



→ **MEMO** スイッチを押すと次の画面へ進みます。  
※100JLは **PICKUP** スイッチ

▲もしくは ▼ が表示されている時は、レバーにより、項目の選択が可能です。



・メニュー画面で **PICKUP** スイッチを押すと前の画面に戻ります。  
※100JLは **MEMO** スイッチ

3.設定が終了したら、水深画面へ戻り釣りを始めてください。

# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

糸長 P1

リールに巻く糸の長さがわかつている時に便利な方法です。  
(PE1号300mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)

⚠  
PE専用です!

◎このリールは、PEライン専用となっております。  
フロロカーボンライン・ナイロンラインは、スプールは破損のおそれがありますので、ご使用はおやめください。

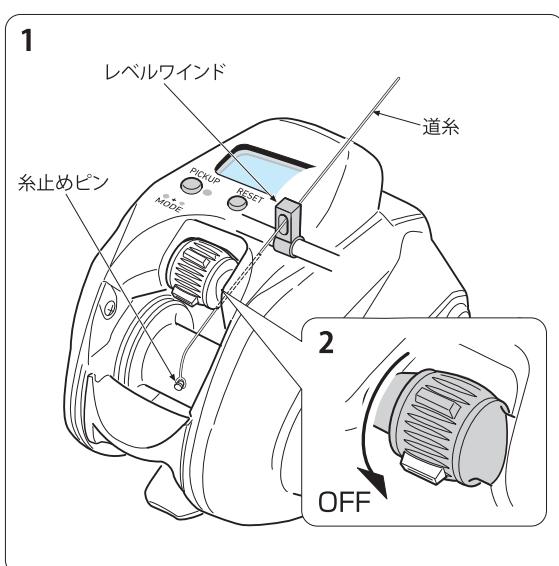
⚠  
やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

## 1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。  
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。  
※ドラグを締め付けてください。

## 2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



## 3.リールを通電させてください。

※接続方法についてはP.10「電源とのつなぎ方」を参照ください。

3



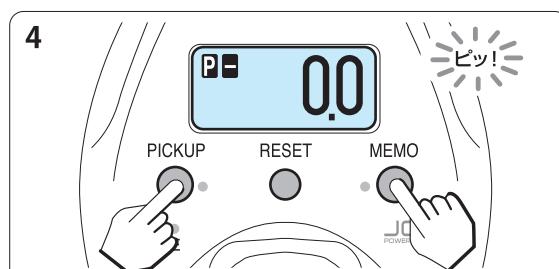
(電源投入画面)

## 4.表示が 0.0 のときに

MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

4

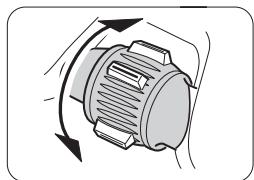


(水深画面)

# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

糸長 P1

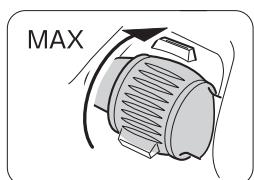
5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。  
※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび 100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチを押します。

6. 「糸長 P1」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを  
MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



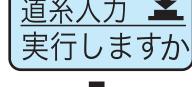
※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを  
調整してください。

5



(メニュー画面)

6



(道糸入力画面)

7



(張力メータ画面)



- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。  
糸があたらないようにご注意ください。  
・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

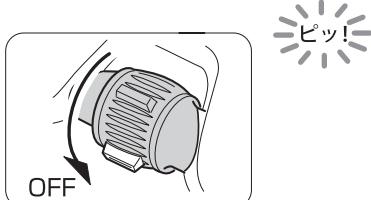
# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

糸長 P1

8.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFF位置まで戻し

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



8

巻き込まない

レバーOFF



- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを卷いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE0.6号未満の細糸は入力することができません。
- PE2号未満の細糸を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

9.ジョグパワーレバーで、道糸の長さを選択し、

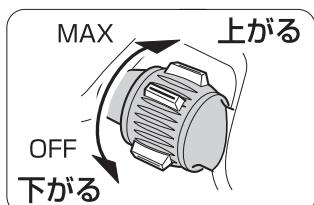
100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

※図は、300mにセットした場合です。

※初期設定値は、300mです。

※セットする数値は、10m単位です。



9

糸長選択  
300 m

10

入力完了  
水深画面へ

10.入力完了画面が表示されたら

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

※入力エラー画面が表示された場合は、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。

入力エラー  
最初からやり

# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

下巻 P2

専用長さのわかる道糸が100m以上必要です。

⚠  
PE専用です!

◎このリールは、PEライン専用となっております。  
フロロカーボンライン・ナイロンラインは、スプールは破損のおそれがありますので、ご使用はおやめください。

⚠  
やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

## 1.下巻用の糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

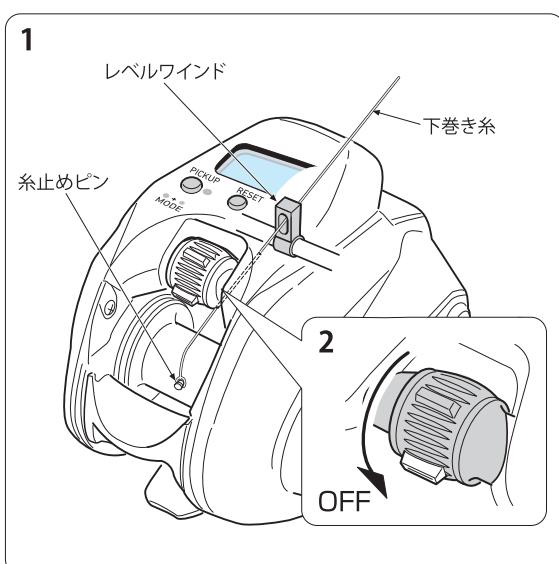
※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

※ドラグを締め付けてください。

※既に下巻が完了している場合は、そのまま次へ進んでください。

## 2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



## 3.リールを通電させてください。

※接続方法についてはP.10「電源とのつなぎ方」を参照ください。

3



(電源投入画面)



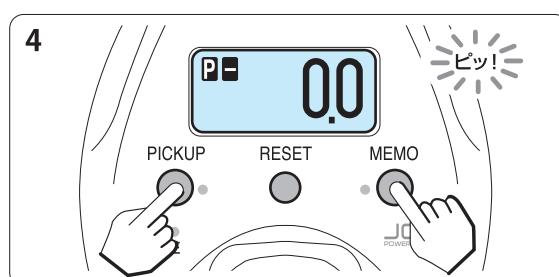
## 4.表示が 0.0 のときに

MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。

※図は100J

(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

4



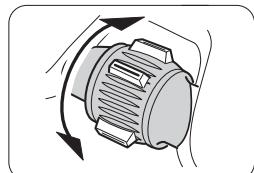
(水深画面)



# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

下巻 P2

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

6. 「下巻 P2」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

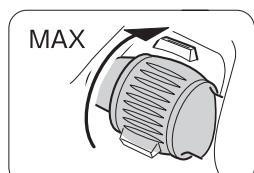
7. 下巻用の糸を巻き、巻き終えたら  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

※付属の下巻きゲージを使い下巻糸の量を調整してください。

※既に下巻が完了している場合は、そのまま  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

8. 上糸をしっかりと結びます。

9. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを  
MAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら残り  
100mになるまで道糸を巻きます。



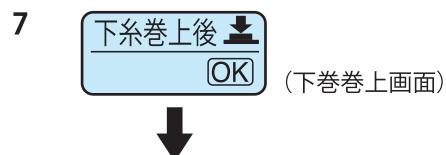
※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンション  
を調整してください。



(メニュー画面)



(下巻入力画面)



(道糸巻上画面)

# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

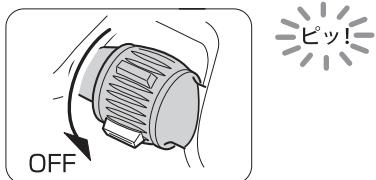
下巻 P2



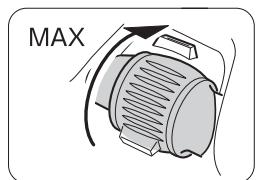
- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

## 10.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し

100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。



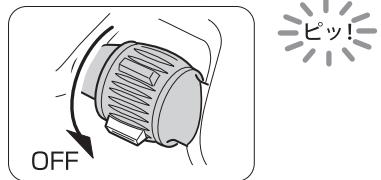
## 11.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら50m道糸を巻いてください。



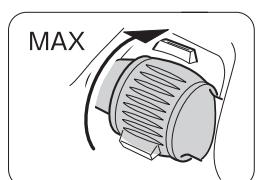
※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

## 12.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し

100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。

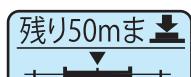


## 13.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら最後まで道糸を巻いてください。



※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

11



(道糸巻上画面)

13



(道糸巻上画面)

# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

下巻 P2

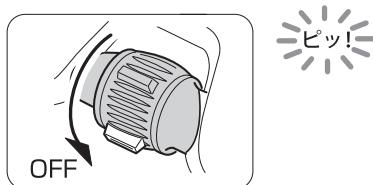


- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE0.6号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE2号未満の細糸を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

## 14.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し

100Jは **MEMO** スイッチ

100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。



## 15.入力完了画面が表示されたら

100Jは **MEMO** スイッチ

100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

15

入力完了  
水深画面へ

※入力エラー画面が表示された場合は、

100Jは **MEMO** スイッチ

100JLは **PICKUP** スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。

入力エラー   
最初からやり

# 機能設定の基本操作「2.道糸入力」

引出 P3

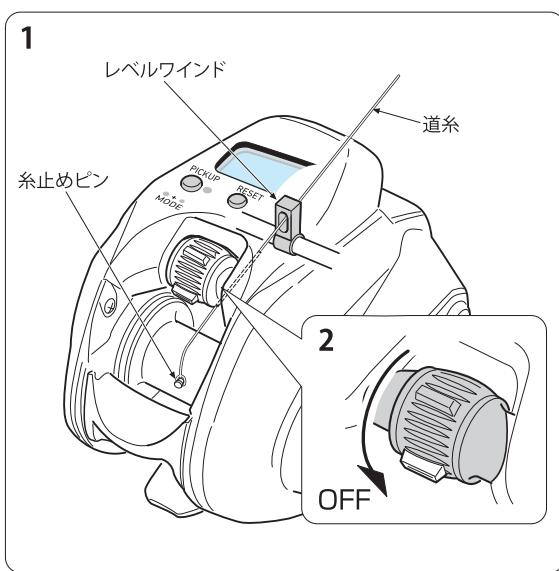
道糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。ただし長さのわかる道糸が60m以上必要です。

⚠  
PE専用です!

◎このリールは、PEライン専用となっております。  
フロロカーボンライン・ナイロンラインは、スプールは破損のおそれがありますので、ご使用はおやめください。

## 1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

- ※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
- ※ドラグを締め付けてください。



## 2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

## 3.リールを通電させてください。

- ※接続方法についてはP.10「電源とのつなぎ方」を参照ください。

3



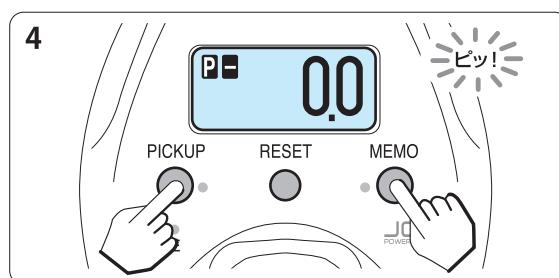
(電源投入画面)



## 4.表示が 0.0 のときに

MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。

- ※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



(水深画面)



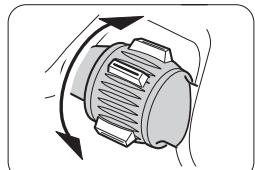
# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

引出 P3

5.ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



5



(メニュー画面)

※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、  
ふたたび

100Jは MEMO スイッチ

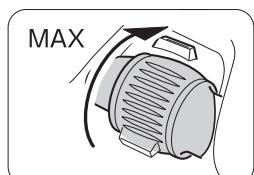
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

6.「引出 P3」を選択し

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

7.テンションを調整して、ジョグパワーレバーを  
MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



6



(道糸入力画面)

7



(張力メーター画面)

※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを  
調整してください。

※既に道糸巻上が完了している場合は、そのまま

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。  
糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

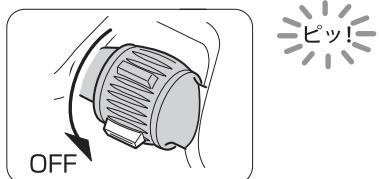
# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

引出 P3

8.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



9.糸色に注意しながら30m引き出して、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

9



10.糸色に注意しながら更に30m引き出して、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

10



11.入力完了画面が表示されたら

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、引出した糸を巻き取って完了です。

11

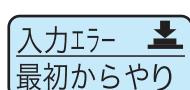


※入力エラー画面が表示された場合は、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE0.6号未満の細糸は入力することができません。
- PE2号未満の細糸を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

引出 P4

道糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。

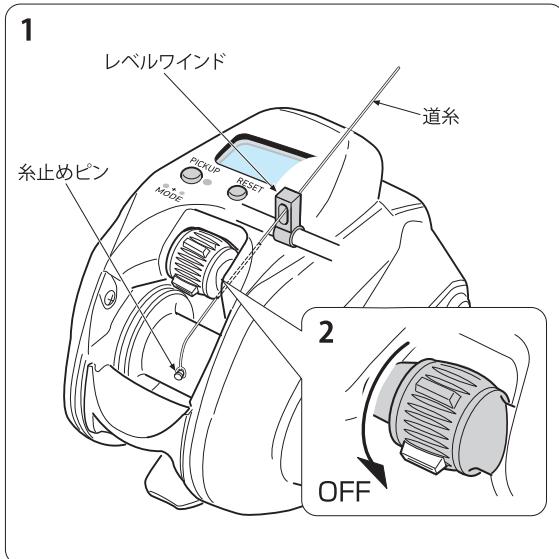
1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



3.リールを通電させてください。

※接続方法についてはP.10「電源とのつなぎ方」を参照ください。

3



(電源投入画面)

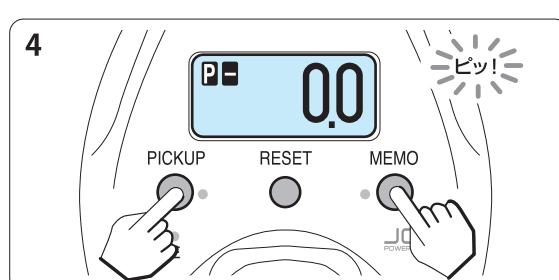


4.表示が **0.0** のときに  
MEMO スイッチと PICKUP スイッチ  
を同時に2秒間押し続けてください。

※図は100J

(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

4



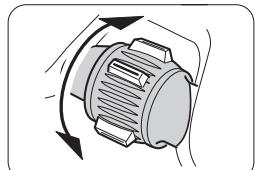
(水深画面)



# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

引出 P4

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

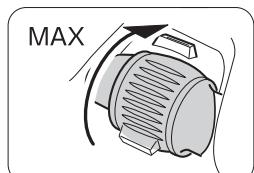


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、  
ふたたび  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

6. 「引出 P4」を選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを  
MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを  
調整してください。

※既に道糸巻上が完了している場合は、そのまま  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。



- 注意
- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。  
糸があたらないようにご注意ください。
  - ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

5  
メニュー ↓  
道糸入力 ↓ (メニュー画面)



道糸入力 ↓  
実行しますか



6  
入力方法 ↓  
引出 P4 (道糸入力画面)



7  
適正テンション ↓  
± (張力メータ画面)

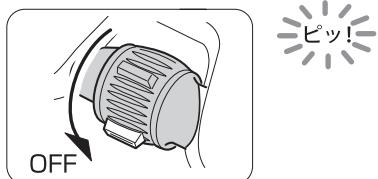
# 機能設定の基本操作 「2.道糸入力」

引出 P4

8.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻します。

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチを押します。



9.糸色に注意しながら10m引き出して、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチを押します。

9



(道糸引出画面)

10.入力完了画面が表示されたら

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、引出した糸を巻き取って完了です。

10

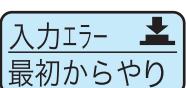


※入力エラー画面が表示された場合は、

100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ

を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



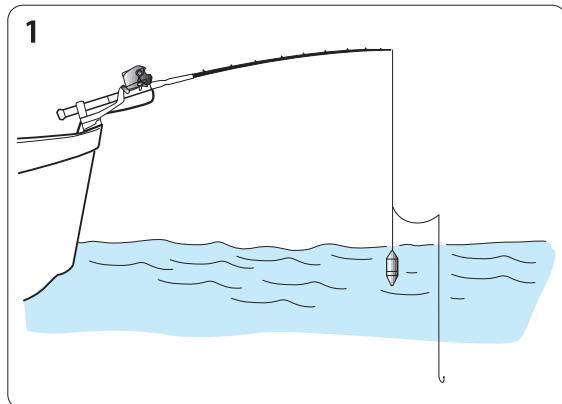
- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを卷いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE0.6号未満の細糸は入力することができません。
- PE2号未満の細糸を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

# 機能設定の基本操作 「3.釣りを始める前に」

## ●水面ゼロ設定

釣りを始める前に必ず行ってください。正確な棚取りが行えます。

- 1.コードをつなぎ、糸を出し、仕掛けをセットします。

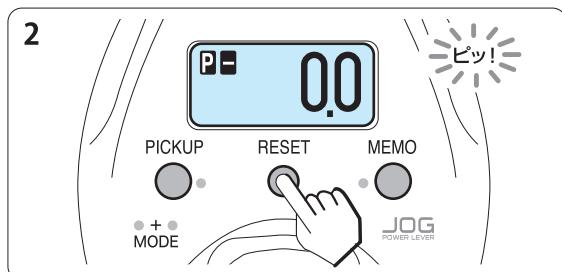


- 2.竿を出し、仕掛けが水面にある時に  
**RESET** スイッチを押します。

表示が **0.0** mになります。

電動巻上の際、船べり2m手前で自動停止するようになります。

※水面ゼロ設定をしていない場合は、安全のため、船べり5mで自動停止します。



## 注意

- ・船べり停止位置は巻上がる張力により変動します。強い張力で巻上げをした場合は船べり停止位置がずれますが、ゼロセットは行なわないでください。
- ・船のゆれやオモリの号数によっては、停止位置が多少オーバーランすることがあります。その時は、設定値を増加させてご使用ください。
- ・水深100m以上で負荷の変動が大きい時は、停止位置のズレにより仕掛けを巻き込み、ロッドを破損する恐れがあります。このような釣りの際は、船べり停止位置を余裕を持って設定してください。
- ・船べり停止後は、誤操作による竿巻き込みを防止のためジョグパワーレバーでは巻きません。

## ●道糸が切れてしまったら

- ・道糸が切れてしまった場合、糸切れ修正を行なってください。  
切れたライン分のラインデータを修正します。通電状態のまま竿先まで巻き上げ、  
**RESET** スイッチを2秒以上押してください。表示が **0.0** になれば完了です。

※上記の作業によってラインデータが上書き（修正）されます。

※糸切れした場合のデータ修正以外は、カウンター誤差の原因になりますので、  
**RESET** スイッチの長押しはしないでください。

# 機能設定の基本操作 「4.船べり停止」

## ●えらべる船べり自動停止

船べり停止位置が思いのまま、さらに手返しラクラク。

- ・えらべる船べり自動停止は、RESETスイッチを押した位置より1m～5mの範囲内で船べり停止位置を任意に選んでセットすることができます。（10cm単位）  
特にコマセ釣りの場合は、船べり停止し、ロッドを立てればビシが手元にくるよう、えらべる船べり自動停止位置をセットすれば手返しに大変便利です。  
ただし、安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。
- ・糸ののびにより船べり自動停止位置が下にズレてくるように感じことがあります。そのときは、再度、水面ゼロ設定をやり直してください。
- ・船べり停止位置付近では、安全のためジョグパワーレバーでの操作がきかない場合があります。

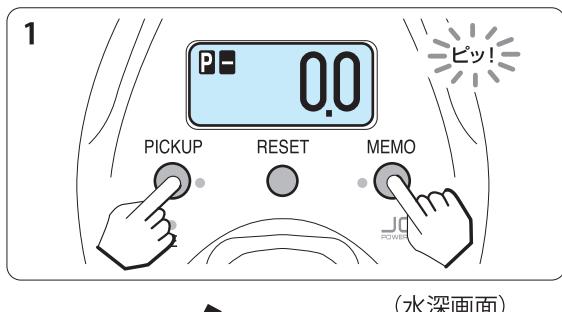
えらべる船べり自動停止は、メニュー画面から設定する方法と水深画面で設定する方法の2種類のやり方があります。

## ●メニュー画面から設定する方法

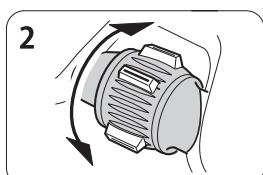
1. MEMOスイッチとPICKUPスイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

2. ジョグパワーレバーで「船べり停止」を選択し  
100JはMEMOスイッチ  
100JLはPICKUPスイッチ  
を押します。



(水深画面)

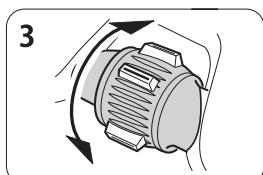


(表示例)

3. ジョグパワーレバーで任意の船べり停止位置を選択し

100JはMEMOスイッチ

100JLはPICKUPスイッチ  
を押して水深画面へ戻ります。



※水面ゼロ設定をしていない場合は、えらべる船べり自動停止は設定できません。先に水面ゼロ設定を行なってください。

4. 仕掛けを投入して、電動巻上を行なうと、設定した位置で自動停止するようになります。

# 機能設定の基本操作 「4.船べり停止」

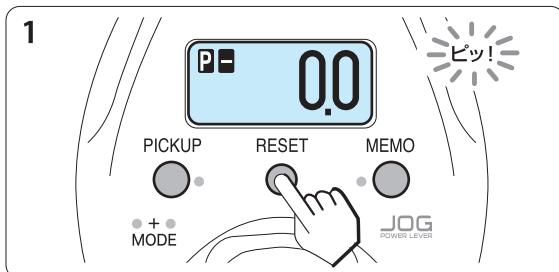
## ●水深画面から設定する方法

1. リールを通電し、水面に仕掛けがある時に **RESET** スイッチを押します。

(水面ゼロ設定)

表示が **0.0** mになります。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

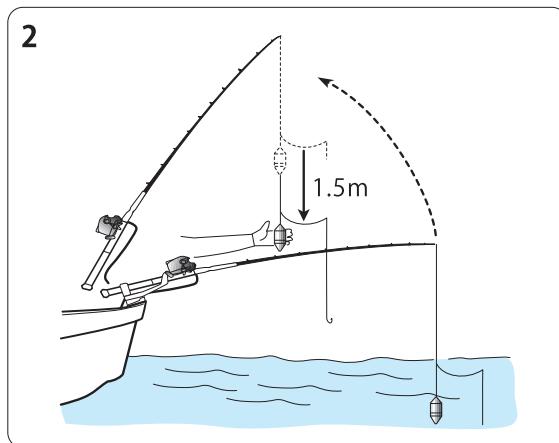


2. ロッドを立てて、仕掛けの取りやすい位置や、取り込みのしやすい位置まで糸を出します。

図の場合は1.5m

**便利**

コマセ釣りの場合  
・竿を立てたときビシがちょうど手元にくる  
ように設定すれば、手返しに大変便利です。

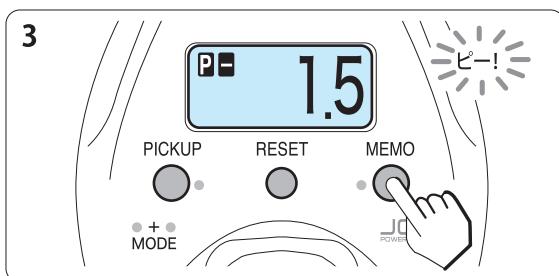


3. その位置で **MEMO** スイッチを約2秒間押し続けければセット完了です。

「ピー！」とアラーム音が鳴れば、セット完了です。  
※船べり自動停止の初期設定は2.0mです。

(**RESET** スイッチを押さない場合は、5.0mで止まります。)

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



4. 仕掛けを回収する時は、設定値で自動で電動巻上げを停止しますので、ロッドを立てれば仕掛けが手元に来ます。

# 機能設定の基本操作 「5.モーターON/OFF運動クラッチ」

電動巻上げ(モーター回転)中にクラッチをOFFにすると、モーター回転が一旦停止し、再度クラッチをONにすると電動巻上げ(モーター回転)を自動で再開します。フォール中における魚のアタリや、イカの触りなど繊細なシグナルを捉えることができます。

## ●モーターON/OFF運動クラッチ操作方法

### 1) クラッチOFF時(モーター停止)

水深9.1m以上でJOG/パワーレバーを動かすと、巻上速度(1～HI)を設定できます。

※カウンター画面左下数値が点滅表示します。

クラッチONにすると、設定した巻上速度(モーター回転)で電動巻上を開始します。

クラッチON(モーター回転)/OFF(モーター停止)の操作が繰返し行えます。

### 2) クラッチON時(モーター回転)

水深9.1m以上でJOG/パワーレバーを動かすと、巻上速度(1～HI)を設定できます。

※カウンター画面左下に数値が表示されます。

※設定した巻上速度(モーター回転)で電動巻上を行います。

クラッチOFFにすると、電動巻上が停止します。(モーター停止)

クラッチON(モーター回転)/OFF(モーター停止)の操作が繰返し行えます。



## 警 告 <ご使用上における警告>

- ・クラッチON時に指を挟んだり、巻き込む恐れがあります。直ちにレバーをOFFにして操作を停止してください。



## △ 注意 <ご使用上における注意点>

- ・穂先に糸が絡んだ状態でクラッチをONにしないでください。穂先を破損する恐れがあります。
- ・糸がバッククラッシュした状態で、クラッチをONにしないでください。リールを破損する恐れがあります。



## △ 注意 <操作における注意点>

- ・繰返し行う際、水深9.0m未満まで巻き取ると、巻上速度の設定がリセットされます。  
再度設定を行ってください。
- ・シャクリ及びチョイ巻き操作時は、設定した巻上速度が無効となります。

# 機能設定の基本操作 「6. チョイ巻き/チョイ止め」

## ●チョイ巻き

PICKUP スイッチを押している間だけ電動リールに巻取りをさせることができる便利な機能です。チョイ巻きの速さは初期設定では15ですが、メニュー画面で変更することができます。

## ●チョイ止め

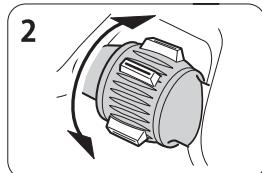
電動巻上げをしている時、PICKUP スイッチを押している間だけ電動巻上げを止めることができる便利な機能です。スイッチを放せばジョグパワーレバーの位置の速度で巻上げを始めます。

## ●チョイ巻き/チョイ止め設定方法

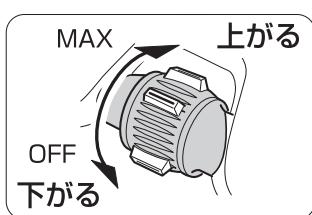
1. MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

2. ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し 100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチを押し、さらにジョグパワーレバーで「チョイ巻」、「チョイ止」のいずれかを選択し  
100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチを押します。



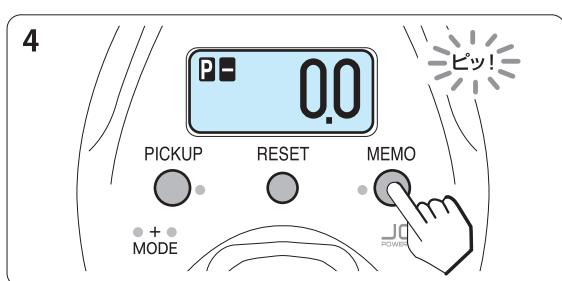
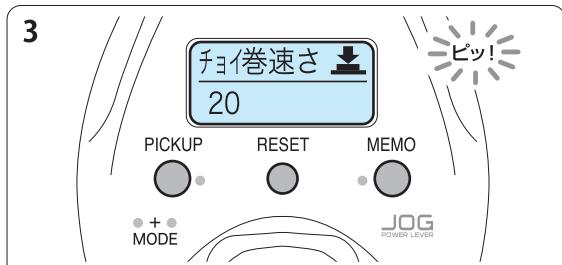
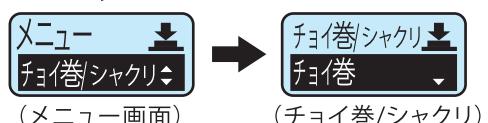
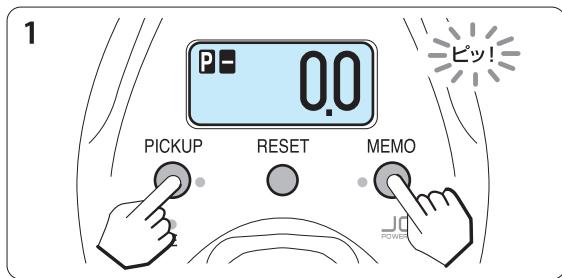
3. ジョグパワーレバーでスピードを設定します。



設定値は1~Hiまでです。(図は20に設定した場合)  
2で「チョイ止め」を選択した場合、3,4の設定はなく、水深画面へ戻ります。

4. 100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチを押し、水深画面に戻せばセット完了です。

※安全のため、船べり停止位置+3m以内では巻けない設定になっています。



# 機能設定の基本操作「7.シャクリ」

## ●シャクリ

電動リールにシャクリ（さそい）をさせる便利な機能です。設定後、**PICKUP**スイッチを押せばシャクリがスタートします。

1. **MEMO**スイッチと **PICKUP**スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

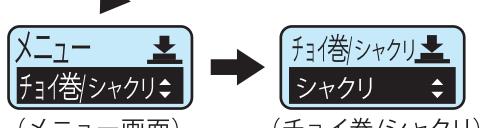
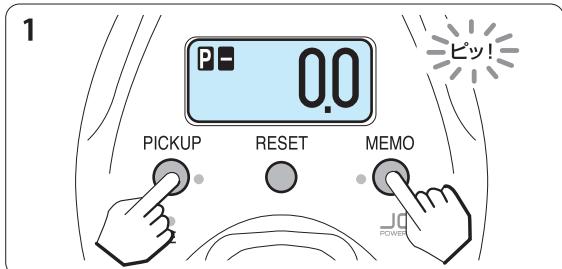
2. ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し

100Jは **MEMO**スイッチ

100JLは **PICKUP**スイッチを押し、さらにジョグパワーレバーで「シャクリ」を選択し

100Jは **MEMO**スイッチ

100JLは **PICKUP**スイッチを押します。



(メニュー画面) → (チョイ巻/シャクリ) → (シャクリパターン)

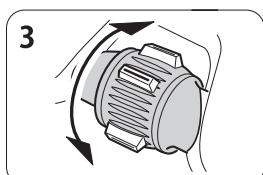


3. ジョグパワーレバーで「シャクリパターン」を選択し

100Jは **MEMO**スイッチ

100JLは **PICKUP**スイッチを押します。

1回のシャクリの長さを「何段」でシャクリをさせるかが選べます。



1段シャクリ	2段シャクリ	3段シャクリ	ランダムシャクリ
 	 	 	 <p>※図は竿でシャクリを表していますが、実際にはリールが巻き上げてシャクリをします。</p> <p>ランダムシャクリとは、1~3段のシャクリを1~Cがひとシャクリごとに自動選択して誘い続けるシステム。まさに変幻自在のシャクリ機構です。</p>

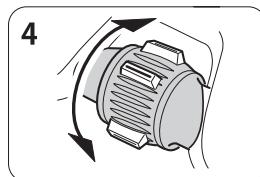
## 機能設定の基本操作 「7.シャクリ」

4.ジョグパワーレバーでシャクリの長さを設定し、  
100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

1回のシャクリの「長さ」を選びます。(オモリの号数や、シャクリのスピードによっては、多少長さがオーバーランすることがあります)

\*シャクリの長さは0.1m～10.0mの範囲で設定できます。



シャクリ長さ  
3.0 m

(表示例)



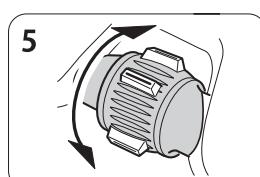
5.ジョグパワーレバーでシャクリの速さを設定し、  
100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

シャクリを行う「速さ」を選びます。

- ・シャクリ速さを1～Hiの範囲で設定した場合、その速さで巻上げます。

- ・シャクリ速さを0に設定した場合、ジョグパワーレバーで速さを調整できます。



シャクリ速さ  
12

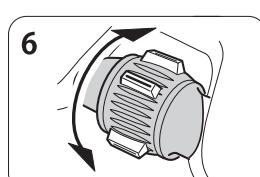
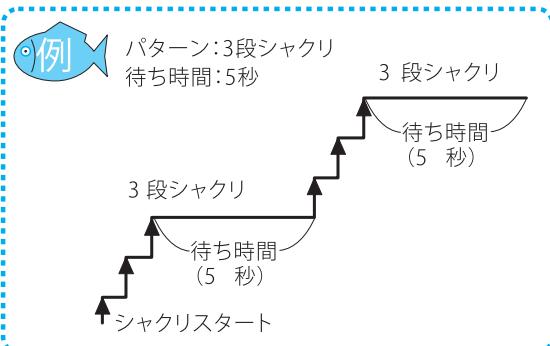
(表示例)



6.ジョグパワーレバーでシャクリ間隔を設定し、  
100Jは MEMO スイッチ

100JLは PICKUP スイッチ  
を押します。

シャクリとシャクリの「間隔(待ち時間)」を選びます。



シャクリ間隔  
3 sec

(表示例)



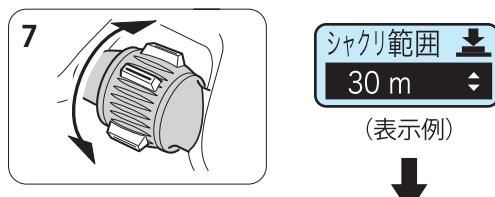
## 機能設定の基本操作「7.シャクリ」

7.ジョグパワーレバーでシャクリ範囲を設定し、  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICK UP** スイッチ  
を押し、水深画面へ戻りセット完了です。

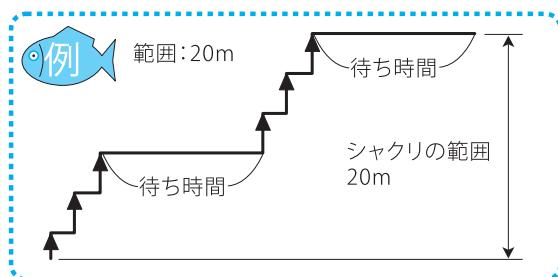
シャクリの「範囲」を選べます。

※範囲をOFFに設定した場合は、船べり停止位置までシャクリを行います。

※範囲を設定した場合は、その間だけシャクリを行います。



(表示例)



8.仕掛け投入後、

**PICK UP** スイッチ を押すと、シャクリがスタートします。

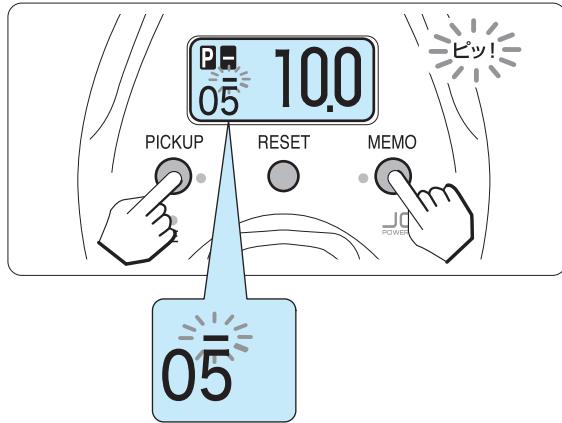
- ・巻上げ中は **J** (シャクリ) が点滅します。
- ・シャクリ速さを「0」に設定した場合には、シャクリの速さはジョグパワーレバーで調整してください。
- ・シャクリ中に **PICK UP** スイッチ を押すと、シャクリが止まります。

## 機能設定の基本操作「8.タイマー」

### ●タイマー

毎回、仕掛け投入経過時間をズバリ表示。手返しペースを作るのにとっても便利。

- ・仕掛け投入開始からの経過時間を表示します。コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを測る目安になります。
- ・タイマーは仕掛け投入後、水面カウンター7.0mよりオートスタートします。



※1分以内は秒単位、1分以上は分単位で表示されます。

※タイマー機能は解除できません。

※タイマーを正しくお使いいただくために、仕掛けを船べり自動停止位置まで巻き取ってから次の投入をしてください。



- ・途中で **MEMO** スイッチ を押した場合は、タイマー表示が  
**0** からスタートします。

# 機能設定の基本操作「9.電子ドラグ音」

ドラグが引き出された際、電子アラーム音でお知らせする機能です。  
3種類のアラーム音とOFFから選択できます。  
※初期は"パターン1(高音)"となっています。

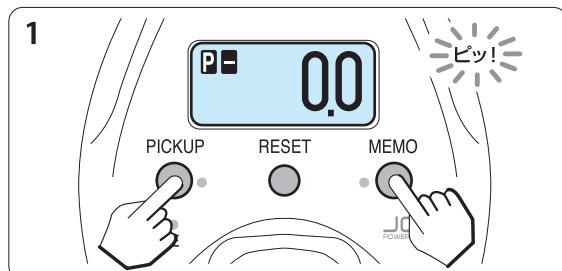
## ●ドラグ音選択項目

パターン1:高音  
パターン2:中音  
パターン3:低音  
OFF:アラーム音無し

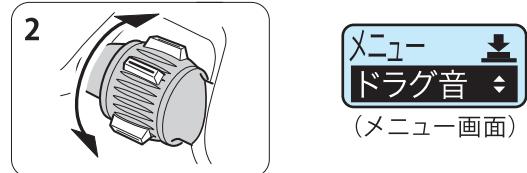
## ●ドラグ音設定方法

1. **MEMO**スイッチと **PICK UP**スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



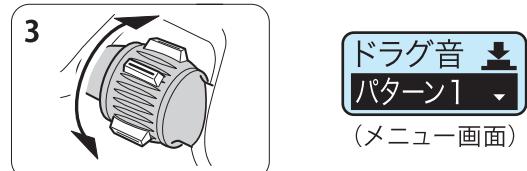
2. ジョグパワーレバーで「ドラグ音」を選択し  
100Jは **MEMO**スイッチ  
100JLは **PICK UP**スイッチ  
を押します。



3. 「ドラグ音」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し  
100Jは **MEMO**スイッチ  
100JLは **PICK UP**スイッチ  
を押します。

※初期は"パターン1"設定となっています。

※電子ドラグ音は3パターンあり、OFFにすることもできます。



# 機能設定の基本操作「10.デプスアラーム」

水深10m毎のカウントをアラーム音でお知らせする機能です。  
フォール(FL)と巻上げ(UP)双方の各種アラーム設定が可能です。  
※初期は"FL1""UP1"となっています。

## ●アラーム音選択項目

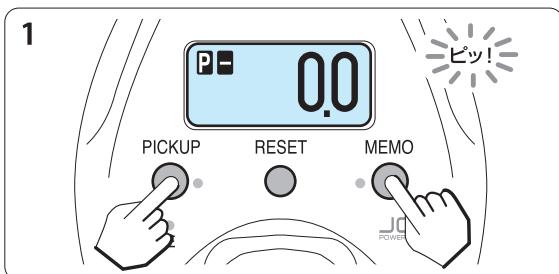
アラーム音は、アラーム音OFFを含めて4つの設定から選択できます。

- ①FL/UPO:アラーム音OFF
- ②FL/UP1:水深10mごとにアラーム音1回の繰り返し
- ③FL/UP3:水深10mごとにアラーム音1回～3回の繰り返し
- ④FL/UP5:水深10mごとにアラーム音1回～5回の繰り返し
- ①～④いずれも、フォール設定、巻上げ設定それぞれでON/OFF設定が可能です。

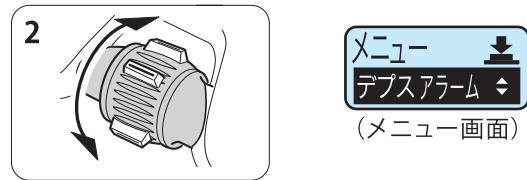
## ●デプスアラーム設定方法

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

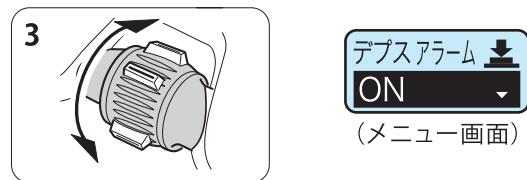


2. ジョグパワーレバーで「デプスアラーム」を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチを押します。



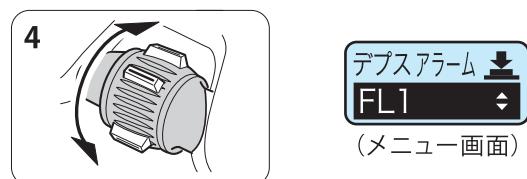
3. ジョグパワーレバーで「デプスアラーム」「ON」を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチを押します。

※初期は"ON"設定となっています。



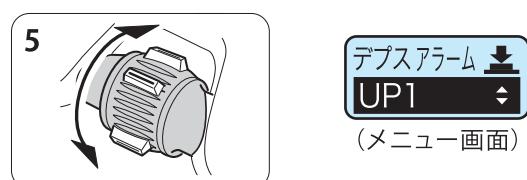
4. 「デプスアラーム(フォール)」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチを押します。

※初期は"FL1"設定となっています。



5. 「デプスアラーム(巻き上げ)」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチを押します。

※初期は"UP1"設定となっています。



# 機能設定の基本操作「11.水深補正①」

## ●水深補正

カウンターの表示が糸色に対してズレてきた時、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。

便利

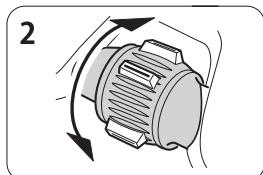
実釣中にカウンターを補正することができます!

(例)糸色ではちょうど100mに対しカウンターの表示を103mから糸色100mに合わせ補正する場合。

- 1.補正したい水深が表示された状態で、  
MEMOスイッチとPICKUPスイッチ  
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

- 2.ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し  
100JはMEMOスイッチ  
100JLはPICK UPスイッチ  
を押します。



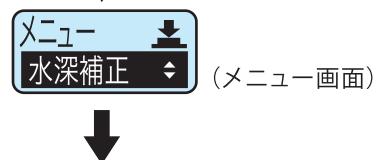
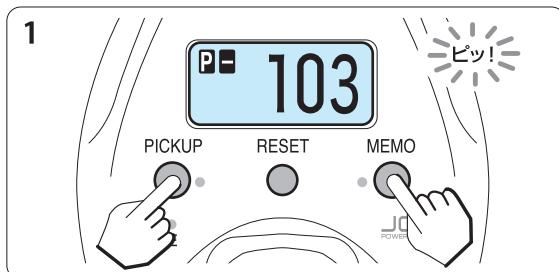
※《実行しますか?》が流れ文字として表示される  
ので、再び  
100JはMEMOスイッチ  
100JLはPICK UPスイッチ  
を押します。

※水深が10.0m未満の時は補正は行なえません。

- 3.ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し  
100JはMEMOスイッチ  
100JLはPICK UPスイッチ  
を押します。

- 4.ジョグパワーレバーで希望の水深を選択し  
100JはMEMOスイッチ  
100JLはPICK UPスイッチ  
を押して水深画面に戻ります。

- 5.水深が補正されました。



# 機能設定の基本操作「12.水深補正②」

## ●10m引出し補正

カウンターの表示が糸色に対してズレてきた時、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。

便利

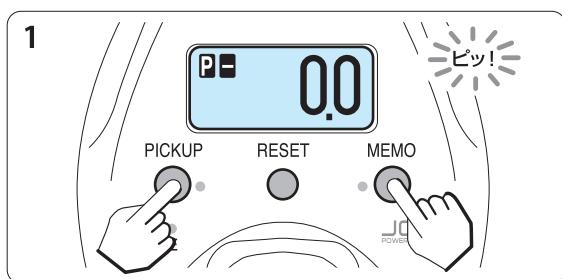
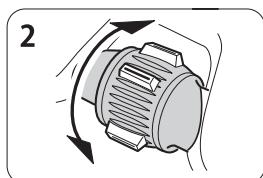
実釣中にカウンターを補正することができます!

- ※必ず船べりまで巻き取ってから実施してください。  
・P1～P4いずれかの方法で入力した後でないと補正できません。  
・入力後に糸を継ぎ足した場合の補正是できません。  
・入力後に糸が極端に少なくなった場合の補正是できません。  
・道糸を新しくした場合には本機能でなく、道糸入力から入力してください。

1. カウンターが **0.0** の状態で、  
**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ  
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)

2. ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。



メニュー  
水深補正

(メニュー画面)

- ※《実行しますか?》が流れ文字として表示される  
ので、再び  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。

※水深が10.0m未満の時は補正は行なえません。

水深補正  
実行しますか

3. ジョグパワーレバーで「10m引出し補正」を選択し、  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。

水深補正  
10m引出補

(表示例)

4. 10m糸を引き出します。

5. 100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押すと、水深が補正されます。

6. 引き出した糸を巻き取れば完了です。

水深補正  
10.0

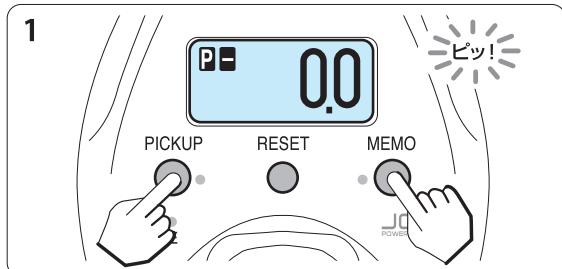
# 機能設定の基本操作「13.実釣来歴」

## ●実釣来歴

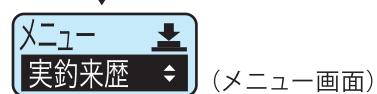
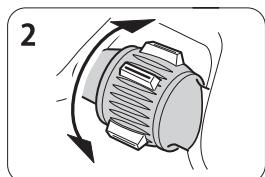
電動リールの総巻上距離と総使用時間を確認できます。  
※表示値には多少誤差が生じことがあります。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は100J  
(100JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



2. ジョグパワーレバーで「実釣来歴」を選択し  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押します。



(メニュー画面)

3. ジョグパワーレバーで総巻上距離と総使用時間が確認できます。  
100Jは **MEMO** スイッチ  
100JLは **PICKUP** スイッチ  
を押すと水深画面に戻ります。



# 機能設定の基本操作 「14.その他の便利機能」

## ●いろいろアラーム

船べり、棚メモリー…さまざまな情報を音でお知らせ、いろいろなアラーム。



### ジョグパワーレバーアラーム

- ・ジョグパワーレバーのMAXの位置と、OFFの位置をアラーム音でお知らせします。

### 船べりお知らせアラーム

- ・巻上げ中、船べり停止6m手前より2m間隔でピッ、船べり停止位置でピーッと鳴り仕掛けが船べりにだんだん近付いて来るのをお知らせします。

### スイッチアラーム

- ・各スイッチを押すと、アラーム(ピッ)が鳴り、スイッチが確実に押されたことを音で確かめられます。(メニュー設定によりOFFにすることもできます。)

### 過電圧警告アラーム

- ・電源電圧がリールの使用可能範囲より高いとき、連続アラーム音を発し、警告します。ただちにその電源の使用をおやめください。

## ●アラームON・OFF選択

アラーム音を設定により消すことができます。



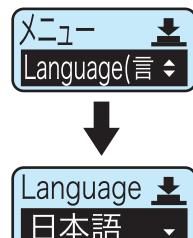
- ・初期設定はONになっています。
- ・アラームをOFFになると、スイッチ操作やジョグパワーレバーを操作してもアラーム音は出ません。
- 1.メニュー画面でアラームON・OFF画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
- 3.100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



## ●Language(言語)選択

液晶画面に表示される言語を日本語/英語/繁体字/簡体字/韓国語から選択できます。

- 1.メニュー画面でLanguage画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで希望の言語を選択してください。
- 3.100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

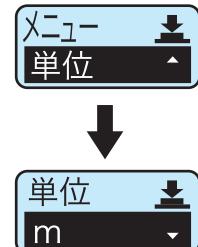


# 機能設定の基本操作 「14.その他の便利機能」

## ●単位選択

液晶画面に表示される数値の単位をm(メートル)/ft(フィート)から選択できます。  
※ただし、ft(フィート)表示に設定した場合でも道糸入力時に限り、m(メートル)表示となります。

- メニュー画面で単位画面にしてください。
- ジョグパワーレバーで希望の単位を選択してください。
- 100Jは MEMO スイッチ  
100JLは PICKUP スイッチ  
を押して水深画面に戻つたらセット完了です。



## ●手巻きスピード表示

手巻きでの巻取りスピード値をカウンターで表記します。※右図:

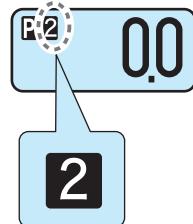
・表記数値:1~10

※注意:電動巻上げ時、およびタイマー巻上設定時は、手巻き  
スピードは表示されません。

※巻上げ速度表示の数値は、下表の通りです。

※実釣時の表示値は実際の巻上げ速度に準じた数値です。

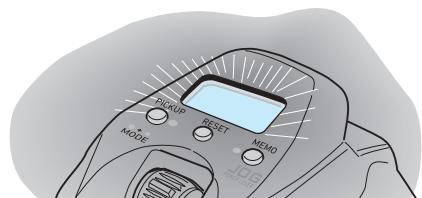
表示	巻上げ速度 (cm/秒)	表示	巻上げ速度 (cm/秒)	表示	巻上げ速度 (cm/秒)
0	0~20	4	80~100	8	160~180
1	20~40	5	100~120	9	180~200
2	40~60	6	120~140	H	200~
3	60~80	7	140~160		



## ●カウンターランプ

カウンター内のランプが常に点灯。

・薄暗いところでもカウンターが見えるよう、通電中はいつもカウンター内のランプがついています。



## ●ブレーカー作動表示

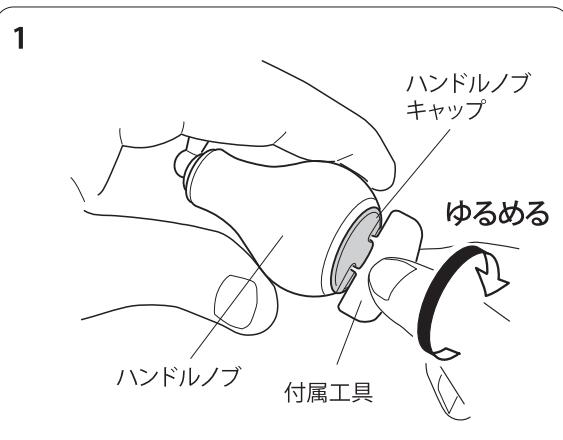
・リール本体の破損を防止するため、過度な負荷が加わったり、過度な温度上昇を検知するとブレーカーが作動し、巻上げ動作を停止します。過度な負荷が加えられた場合には5秒間、過度な温度上昇が起きた場合には15秒間停止します。



## 機能設定の基本操作 「15.ハンドルノブの取り外し方」

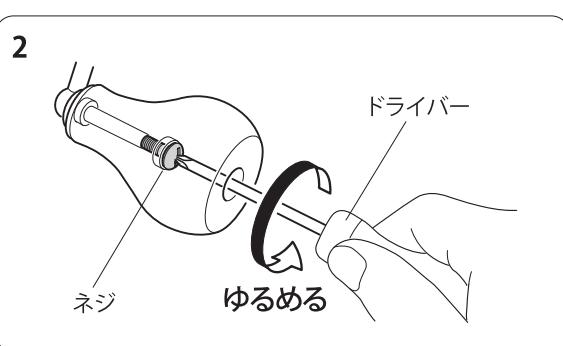
1.ハンドルノブを手で押えながら付属の工具でハンドルノブキャップをゆるめて外します。

※ネジは逆ネジになっていますので、ご注意ください。また、ハンドルノブキャップに付属工具をしっかりと組み合わせて回さないと、ハンドルノブキャップが傷付いてしまいますのでご注意ください。

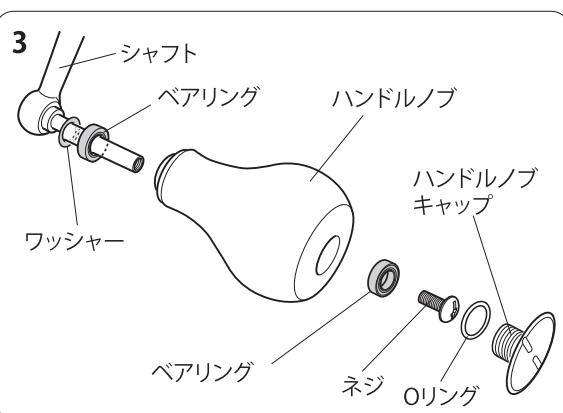


2.ドライバーでノブ内部のスクリューをゆるめて外します。

※スクリューには、ゆるみ止め防止剤が付いていて、ゆるみにくくなっています。ネジ山を傷めないようにご注意ください。



3.部品構成は図のようになります。



# 仕様一覧

## ●リール仕様一覧

シーボーグ 100J/JL

製品コード		100J	100JL	
		00810045	00810046	
ギア比（手動時）		5.1:1		
標準自重(g)		375		
最大ドラグ力(kg)		7		
標準巻糸量(m)	PE (号)	1	300	
		1.5	200	
		2	150	
ボールベアリング入数(ボール/ローラー)		13/1		
電源電圧		DC12V~16.8V		
最大巻上力 ※1 (Kg)		18		
常用巻上速度(1kg負荷時) ※2 (m/分)		130		
JAFS基準巻上力 ※3 (Kg)		6		
JAFS基準巻上速度 ※3 (m/分)		180		
電流(A)	無負荷時	3		
	定格	5		
	最大	12		
変速機能	無負荷時	0~180 m/分 (無段階変速)		
最適バッテリー		ダイワスーパーリチウムシリーズ ダイワタフバッテリーシリーズ		

※1:最大巻上力=電源電圧13 V、軸トルクによる参考値。(Kg=Kgf・cm)

※2:常用巻上速度=電源電圧13 V、1kg負荷時の100m巻上げ速度の平均。

※3:JAFS基準巻上力/巻上速度=日本釣用品工業会規程、電源電圧13 Vにおける測定値。

※巻糸量は目安であり、メーカー・アイテム・テンションにより異なります。

※PE専用

## ●カウンター部仕様

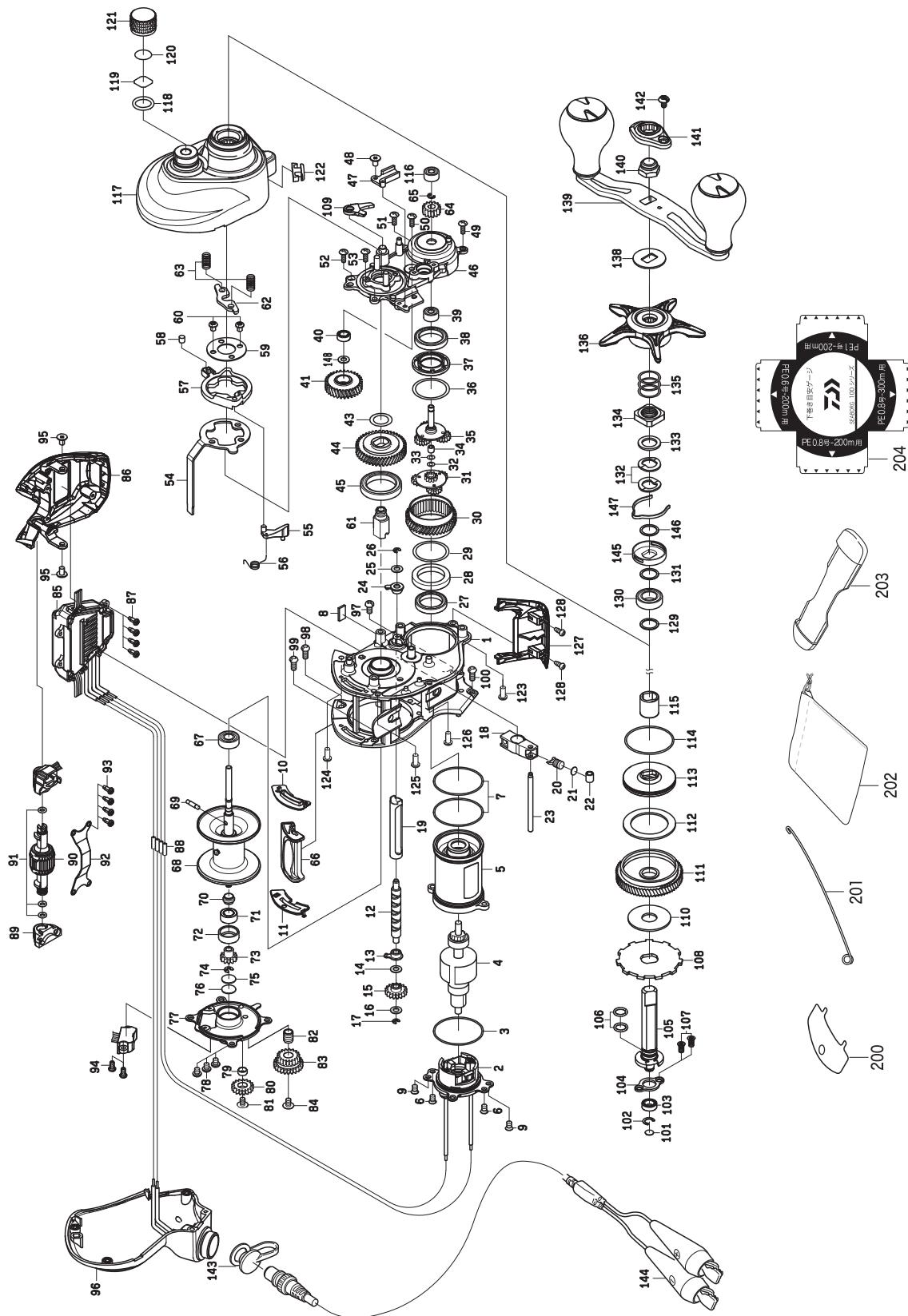
水深表示範囲	0.0~3000 m
使用可能温度	-10°C~60°C

※改良のため、仕様を予告なく変更することがあります。

# 展開図

SEABORG 100J/JL

※図は100J



# 展開図

SEABORG 100J/JL

No.	部品名		No.	部品名	
	100J	100JL		100J	100JL
1	フレーム	フレーム	81	トラスコネジ	トラスコネジ
2	モーターホルダ-UN	モーターホルダ-UN	82	カバー	カバー
3	Oリング	Oリング	83	ギア	ギア
4	ローターUN	ローターUN	84	トラスコネジ	トラスコネジ
5	モータ-ASジョウ	モータ-ASジョウ	85	カシタ-AS	カシタ-AS
6	ナヘコネジ	ナヘコネジ	86	カシタ-カバー	カシタ-カバー
7	Oリング	Oリング	87	ナヘアタマタッピングネジ	ナヘアタマタッピングネジ
8	ネームブレート	ネームブレート	88	チュー-ブ	チュー-ブ
9	ナヘコネジ	ナヘコネジ	89	ホルダ-	ホルダ-
10	ブレード(R)	ブレード(L)	90	レバ-AS	レバ-AS
11	ブレード(L)	ブレード(R)	91	Oリング	Oリング
12	ウォームシャフト	ウォームシャフト	92	ブレード	ブレード
13	カバー	カバー	93	ナヘアタマタッピングネジ	ナヘアタマタッピングネジ
14	ワッシャー	ワッシャー	94	ナヘコネジ	ナヘコネジ
15	ギア	ギア	95	ヒラコネジ	ヒラコネジ
16	ワッシャー	ワッシャー	96	サドブレード(L)AS	サドブレード(R)AS
17	リティナー	リティナー	97	ナヘコネジ	ナヘコネジ
18	レヘルワインド	レヘルワインド	98	ナヘコネジ	ナヘコネジ
19	ハピ	ハピ	99	ナヘコネジ	ナヘコネジ
20	レヘルワインドビン	レヘルワインドビン	100	トルクスアナツキタッピングネジ	トルクスアナツキタッピングネジ
21	ワッシャー	ワッシャー	101	ワッシャー	ワッシャー
22	カバー	カバー	102	クリセントガタメフ	クリセントガタメフ
23	ピラー	ピラー	103	ボールヘアリング	ボールヘアリング
24	カバー	カバー	104	ブレード	ブレード
25	ワッシャー	ワッシャー	105	ギアシャフト	ギアシャフト
26	リティナー	リティナー	106	Oリング	Oリング
27	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	107	サコネジ	サコネジ
28	カバー	カバー	108	チエット	チエット
29	ワッシャー	ワッシャー	109	スリップ-AS	スリップ-AS
30	ギア	ギア	110	ワッシャー	ワッシャー
31	ブレードAS	ブレードAS	111	ドライバギアAS	ドライバギアAS
32	ワッシャー	ワッシャー	112	ワッシャー	ワッシャー
33	ワッシャー	ワッシャー	113	カバー	カバー
34	ベアリング	ベアリング	114	Oリング	Oリング
35	メタルAS	メタルAS	115	カバー	カバー
36	ワッシャー	ワッシャー	116	ボールヘアリング	ボールヘアリング
37	カバー	カバー	117	サドブレード(R)	サドブレード(R)
38	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	118	Oリング	Oリング
39	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	119	ワッシャー	ワッシャー
40	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	120	ワッシャー	ワッシャー
41	ギアAS	ギアAS	121	ナット	ナット
43	ワッシャー	ワッシャー	122	ライントップバー	ライントップバー
44	ギア	ギア	123	ナヘコネジ	ナヘコネジ
45	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	124	ナヘコネジ	ナヘコネジ
46	セットブレード(R)AS	セットブレード(L)AS	125	ナヘコネジ	ナヘコネジ
47	ブレード	ブレード	126	ナヘコネジ	ナヘコネジ
48	ヒラコネジ	ヒラコネジ	127	フックガーバー	フックガーバー
49	ナヘコネジ	ナヘコネジ	128	ナヘアタマタッピングネジ	ナヘアタマタッピングネジ
50	ナヘコネジ	ナヘコネジ	129	ワッシャー	ワッシャー
51	ナヘコネジ	ナヘコネジ	130	カミソリタマジクウケ	カミソリタマジクウケ
52	ナヘコネジ	ナヘコネジ	131	ワッシャー	ワッシャー
53	ナヘコネジ	ナヘコネジ	132	スプロリンクワッシャー	スプロリンクワッシャー
54	クラッチカムブレード	クラッチカムブレード	133	ワッシャー	ワッシャー
55	キックハイマー	キックハイマー	134	ナット	ナット
56	スプロリンク	スプロリンク	135	スプロリンク	スプロリンク
57	クラッチカム	クラッチカム	136	スタートラグ	スタートラグ
58	マクネット	マクネット	138	ワッシャー	ワッシャー
59	ブレード	ブレード	139	ハンドルAS	ハンドルAS
60	ナヘコネジ	ナヘコネジ	140	ナット	ナット
61	シャフト	シャフト	141	キャップ	キャップ
62	クラッチブレード	クラッチブレード	142	コネジ	コネジ
63	スプロリンク	スプロリンク	143	キャップ	キャップ
64	ビニオン	ビニオン	144	コード	コード
65	リティナー	リティナー	145	キップ	キップ
66	クラッチバー	クラッチバー	146	ワッシャー	ワッシャー
67	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	147	リースプロリンク	リースプロリンク
68	スプロールAS	スプロールAS	148	ワッシャー	ワッシャー
69	ビン	ビン	200	ドライバー	ドライバー
70	カバー	カバー	201	イトガ	イトガ
71	ボールヘアリンク	ボールヘアリンク	202	リールバッゲーダイ	リールバッゲーダイ
72	カバー	カバー	203	フレームカバー	フレームカバー
73	ギア	ギア	204	シマギナージ	シマギナージ
74	リティナー	リティナー	205	マニュアル	マニュアル
75	ワッシャー	ワッシャー			
76	ワッシャー	ワッシャー			
77	セットブレード(L)	セットブレード(R)			
78	ナヘコネジ	ナヘコネジ			
79	カバー	カバー			
80	ギア	ギア			

※調整、その他により、展開図、部品表内容が製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# 故障かな?と考える前に

症 状	考えられる原因	処 置	参 照 ページ
パワーレバーを操作しても、モーターが回転しない。	・船べり停止後、そのまま巻き続けカウンター表示が <b>2.0</b> mになっています。	・正常です。(巻込み防止のため手動以外作動しないようにしてあります)。	P33
	・レバーを1度OFFの位置に戻していません。	・1度レバーをOFFの位置に戻して巻上げを開始してください。	P16
	・安定しない船の電源を使用しています。	・船電源は不安定で、正常に作動しないことがあります。電動リール専用バッテリーをご使用ください。	P11,12
	・クラッチがOFFの状態です。	・クラッチをONにすると巻上げが再開します。	P36
カウンターがつかない。	・バッテリーの残量切れです。	・バッテリーを再充電してご使用ください。	P11,12
	・コードの断線です。	・コードを新品と交換してください。	P14
	・バッテリーと <b>+</b> 、 <b>-</b> が正しく接続されていません。	・ <b>+</b> 、 <b>-</b> の逆接なく、確実に接続し直してください。	P10
船べり停止位置がおかしい。	・仕掛けセットしたとき、 <b>RESET</b> スイッチを押していません。	・仕掛けをセットした後は必ず水面ゼロ設定をしてください。	P33
	・オモリの号数や船のゆれによって多少ズレることがあります。	・えらべる船べり停止の設定値を調整してください。	P34
	・糸がのびて水面ゼロ設定点が下にズれてしまっています。	・水面ゼロ設定を再度行ってください。	P33
カウンター表示に誤差が多い。	・使用中に道糸がのびることがあり、カウンター表示と色糸との間に差が生じることがあります。	・再度、道糸データを入力してください。	P20~32
	・実釣中、電源が消えた時に糸を巻いてしまった。	・水深補正をしてください。	P44,45
	・糸を取出している時に、 <b>RESET</b> スイッチを長押ししてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	P20~32
チョイ巻きスイッチを押しても巻けない。	・速度設定がOFFになっています。	・メニュー画面で速度を設定してください。	P37
	・船べり停止位置+3m内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	P37
シャクリスイッチを押してもシャクリしない。	・ジョグパワーレバーがOFFになっています。	・シャクリの早さが0になっています。ジョグパワーレバーでシャクリの速さを決めてください。	P38~40
	・船べり停止位置+3m内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	
	・チョイ巻き設定になっています。	・メニュー画面でシャクリの設定をしてください。	

\*上記の点検が行なわれてもなお、正常に戻らない場合、およびほかの故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は、お買い求めの販売店、または取説裏面に記載されたお客様センターにおたずねください。

#### アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際はお買い求めの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますので了承ください。

お客様センター（無料） 携帯電話からもご利用できます

**TEL 0120-506-204**

受付時間：9:00～17:00 (土・日・祝祭日は除く)

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます

[www.daiwa.com/jp/](http://www.daiwa.com/jp/)

**グローブライド株式会社**

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16